FOMA® D705iμ

パソコン接続マニュアル

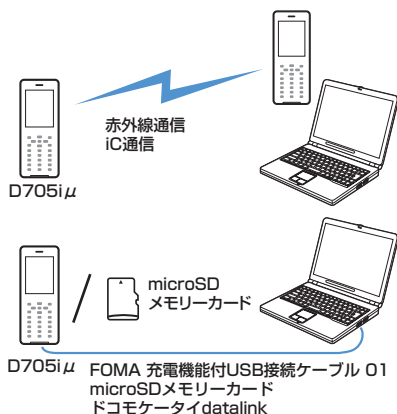
■ パソコン接続マニュアルについて
本マニュアルでは、FOMA D705iμでデータ通信をする際に必要な事項についての説明をはじめ、CD-ROM内の「FOMA通信設定ファイル」「FOMA PC設定ソフト」のインストール方法などを説明しています。
お使いの環境によっては操作手順や画面が一部異なる場合があります。

データ通信について

FOMA端末とパソコンを接続してご利用できる通信は、データ転送（OBEX）、パケット通信、64Kデータ通信に分類されます。

- FOMA端末はFAX通信やRemote Wakeupには対応していません。
- FOMA端末をドコモのPDA「musea」「sigmarion Ⅱ」「sigmarion Ⅲ」と接続してデータ通信を行えます。musea、sigmarion Ⅱを利用する場合は、アップデートが必要です。アップデートなどの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- 本FOMA端末では海外でのパケット通信、64Kデータ通信はご利用いただけません。
- 本FOMA端末はIP接続に対応しておりません。

■ データ転送（OBEX）

画像や音楽、電話帳、メールなどのデータを、他のFOMA端末やパソコンなどとの間で送受信します。

■ パケット通信

送受信したデータ量に応じて課金される通信形態です（受信最大384kbps、送信最大64kbps）。ドコモのインターネット接続サービスmopera U / moperaなど、FOMAのパケット通信に対応したアクセスポイントを利用します。

画像を含むホームページの閲覧、データのダウンロードなどデータ量の多い通信を行うと、通信料が高額になりますのでご注意ください。

■ 64Kデータ通信

接続時間の長さに応じて課金される通信形態です（通信速度最大64kbps）。ドコモのインターネット接続サービス mopera U / mopera など、FOMA 64K データ通信に対応したアクセスポイント、または ISDN 同期 64K アクセスポイントを利用します。

長時間にわたる通信を行うと、通信料が高額になりますのでご注意ください。

ご使用になる前に

動作環境について

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は、以下のとおりです。

項　目	必要環境
パソコン本体※1	PC/AT互換機
OS※2	Windows 2000、Windows XP、Windows Vista（各日本語版）
必要メモリ	Windows 2000：64Mバイト以上 Windows XP：128Mバイト以上 Windows Vista：512Mバイト以上
ハードディスク容量	5Mバイト以上の空き容量

※1：USBポート（USB仕様1.1/2.0に準拠）が必要です。
※2：OSアップグレードからの動作は保証対象外です。

おしらせ

- 動作環境によってはご使用になれない場合があります。また、上記の動作環境以外でのご使用やOSアップグレードによる問い合わせおよび動作保証は、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 「FOMA D705iμ CD-ROM」画面が動作する推奨環境はMicrosoft Internet Explorer6.0以降※1です。CD-ROM をセットしても「FOMA D705iμ CD-ROM」画面が表示されない場合は次の手順で操作してください。
  ① [スタート] →「マイコンピュータ」をクリック
    - Windows 2000の場合：デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック
    - Windows Vistaの場合：(スタート) →「コンピュータ」をクリック

  ② CD-ROM アイコンを右クリック→「開く」をクリック
  ③「index（index.html）」をダブルクリック
  ※1：Windows Vistaの場合、推奨環境はMicrosoft Internet Explorer7.0以降です。

つづく▶

警告画面が表示された場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットすると、下記のような警告画面が表示される場合があります。この警告は、Microsoft Internet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。
［はい］をクリックしてください。

- 画面は Windows XP を使用した場合の例です。お使いのパソコンの環境により異なる場合があります。

- Windows Vistaの場合、付属のCD-ROMをパソコンにセットすると自動再生画面が表示されることがあります。
  「rundll32.exeの実行」をクリックしてください。

必要な機器について

FOMA端末とパソコン以外に以下のハードウェア、ソフトウェアを使います。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）またはFOMA USB接続ケーブル（別売）
- 付属のCD-ROM「FOMA D705iμ用CD-ROM」

おしらせ

- ●パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。本書では、FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01の場合で説明しています。
- ●USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。

ご利用時の留意事項

インターネットサービスプロバイダの利用料について

パソコンからインターネットを利用する場合は、通常ご利用になるインターネットサービスプロバイダ（以降、プロバイダ）に対する利用料が必要です。この利用料は、FOMA サービスの利用料とは別に直接プロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳細は、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。

- ドコモのインターネット接続サービスmopera U / moperaをご利用いただけます。mopera Uは、お申し込みが必要（有料）です。ブロードバンド接続などに対応し、使用した月だけ月額使用料がかかるプランもございます。また、moperaは、お申し込み不要、月額使用料無料です。今すぐインターネットに接続できます。利用料などの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

接続先（プロバイダなど）の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときはFOMAのパケット通信に対応した接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。

- PIAFSなどのPHS64K／32Kデータ通信やDoPaのアクセスポイントには接続できません。

ネットワークアクセス時のユーザー認証について

接続先によっては、接続時にユーザー認証が必要な場合があります。その場合は、通信ソフトまたはダイヤルアップネットワークで ID とパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードはプロバイダまたは社内 LAN など接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳細は、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

パソコンのブラウザを利用してのアクセス認証について

FirstPass（ユーザ証明書）の認証を行う場合は付属のCD-ROMからFirstPass PCソフトをインストールし、設定してください。詳しくは付属のCD-ROM内の「簡易操作マニュアル（FirstPassManual.pdf）」をご覧ください。

つづく▶

パケット通信および64Kデータ通信の条件

- FOMAサービスエリア内であること
- パケット通信の場合、接続先が FOMA のパケット通信に対応していること
- 64Kデータ通信の場合、接続先がFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64Kに対応していること

ただし、上記の条件が整っていても、基地局が混雑していたり、電波状況が悪かったりする場合は通信できないことがあります。

データ通信の用語集

● 管理者権限
OS のシステムなどすべてにアクセスできる権限のこと。
1 台のパソコンに最低 1 人は、パソコンの管理者権限を持つユーザーが設定されています。通常、パソコンの管理者権限がないユーザーは、ドライバ、ソフトなどのインストールおよびアンインストールができません。

● APN（Access Point Name）
パケット通信で接続するプロバイダなどを識別する文字列。mopera Uは「mopera.net」が、moperaは「mopera.ne.jp」がAPNとなります。

● cid（Context Identifier）
パケット通信の接続先（APN）をFOMA端末へ書き込むときの登録番号。FOMA端末では1から10までの10件が使えます。
お買い上げ時、cid 1 には「mopera.ne.jp」、cid 3 には「mopera.net」が登録されています。

データ通信の準備の流れ

データ転送（OBEX）の準備の流れ

FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）をご利用になる場合には、FOMA通信設定ファイルをインストールしてください。

FOMA通信設定ファイルのダウンロード、インストール☛P5
- 付属のCD-ROMからインストール
  または
- ドコモのホームページからダウンロードし、インストール

↓

データ転送

パケット通信、64Kデータ通信の準備の流れ

パソコンとFOMA端末を接続して、パケット通信または 64K データ通信を利用する場合の準備は次のような流れになります。

① FOMA通信設定ファイルのダウンロード、インストール☛P5
- 付属のCD-ROMからインストール
  または
- ドコモのホームページからダウンロードし、インストール

② パソコンとFOMA端末の接続☛P4
③ FOMA通信設定ファイルの確認☛P6

↓

FOMA PC設定ソフトのインストール
- Windows XP、Windows 2000 ☛P7
- Windows Vista ☛P16

↓

（かんたん設定）
パケット通信設定
●mopera U / mopera
- Windows XP、Windows 2000 ☛P8
- Windows Vista ☛P17

●その他のプロバイダ
- Windows XP、Windows 2000 ☛P10
- Windows Vista ☛P18

（かんたん設定）
64Kデータ通信設定
●mopera U / mopera
- Windows XP、Windows 2000 ☛P11
- Windows Vista ☛P20

●その他のプロバイダ
- Windows XP、Windows 2000 ☛P12
- Windows Vista ☛P21

↓

通信実行
- Windows XP、Windows 2000 ☛P13
- Windows Vista ☛P21

切断
- Windows XP、Windows 2000 ☛P13
- Windows Vista ☛P22

↓

FOMA PC設定ソフトを使わない通信の設定☛P24

↓

接続☛P32／切断☛P32

FOMA通信設定ファイルについて

FOMA端末をパソコンに接続してデータ通信を行うには、付属のCD-ROMからFOMA通信設定ファイルをインストールする必要があります。

FOMA PC設定ソフトについて

付属のCD-ROMからFOMA PC設定ソフトをパソコンにインストールすると、FOMA端末とパソコンを接続して、パケット通信または64Kデータ通信を行うために必要なさまざまな設定を、パソコンから簡単に操作できます。

インストール／アンインストール前の注意点

- FOMA通信設定ファイルやFOMA PC設定ソフトをインストール／アンインストールするときは、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザーで行ってください。それ以外のユーザーで行うとエラーになる場合があります。Windows Vistaの場合、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたときは「許可」または「続行」をクリックしてください。パソコンの管理者権限の設定操作については、パソコンの取扱説明書をご覧になるか、各パソコンメーカーやマイクロソフト社にお問い合わせください。
- 操作を始める前に、稼動中の他のプログラムがないことを確認してください。稼動中のプログラムがあった場合は、プログラムを保存、終了させた後に行ってください。

パソコンとFOMA端末を接続する

パソコンとFOMA端末は、電源が入っている状態で接続してください。

- 接続前に必ずFOMA通信設定ファイルをインストールしておいてください。☛P5

通信モードに設定する

USB モード設定で「microSD モード」または「MTP モード」に設定している場合は、「通信モード」に設定してください。

① MENU 6 2 6 ▶ 1 ▶ はい

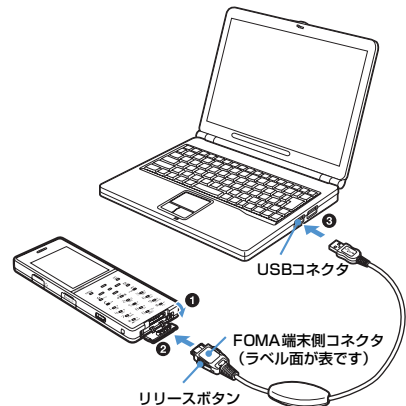
接続のしかた

FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）を使って接続します。

❶ **FOMA端末の外部接続端子の端子キャップを開く**

❷ **FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01のFOMA端末側コネクタを、「カチッ」と音がするまでFOMA端末の外部接続端子に差し込む**

❸ **FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01のパソコン側コネクタを、パソコンのUSBコネクタに差し込む**

- パソコンとFOMA端末を接続すると、FOMA端末の画面に[USBアイコン]が表示されます。FOMA通信設定ファイルのインストール前には[USBアイコン]は表示されません。
- FOMA通信設定ファイルのインストール前に接続すると、新しいハードウェアの検出ウィザード画面が表示されます。その場合は、FOMA端末を取り外し、ウィザード画面で［キャンセル］をクリックして、終了してください。

■ **取り外しかた**

パソコン側コネクタはそのまま引き抜きます。FOMA端末側コネクタは、必ずリリースボタンを押しながら水平に引き抜いてください。無理に引っ張ると故障の原因となります。

おしらせ

● データ通信中にFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01を取り外したり、FOMA端末に衝撃を与えないでください。充電やデータ通信の切断、パソコンやFOMA端末の誤動作や故障、データ消失の原因となります。

FOMA 通信設定ファイルをインストールする

FOMA通信設定ファイルをインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P4

- FOMA端末は操作1～4を行った後にパソコンに接続してください。

例 Windows XPの場合

1 付属のCD-ROMをパソコンにセット

「FOMA D705iμ CD-ROM」画面が表示されます。

2 ［データリンクソフト・各種設定ソフト］▶「FOMA通信設定ファイル（USBドライバ）」の「インストール」をクリック

3 「FOMAinst（FOMAinst.exe）」をダブルクリック

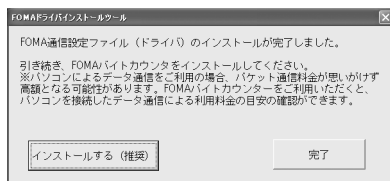
4 ［インストール開始］をクリック

FOMA端末をパソコンに接続する旨の画面が表示されます。

5 FOMA端末をパソコンに接続する☛P4

FOMA通信設定ファイルのインストールが完了後、［終了］をクリックすると、FOMAバイトカウンタをインストールする旨の確認画面が表示されます。

- FOMA端末は電源が入った状態で接続してください。

6 ［インストールする（推奨）］をクリック

- FOMAバイトカウンタをインストールしないときは［完了］をクリックします。

7 「FOMAバイトカウンタ セットアップへようこそ」画面で［次へ］をクリック

8 注意事項を確認▶［次へ］をクリック

9 使用許諾契約を確認▶契約内容に同意する場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択▶［次へ］をクリック

10 インストール先を確認▶［次へ］をクリック

11 ［インストール］をクリック

12 ［完了］をクリック

13 ［OK］をクリックし、ご利用にあわせてオプション設定を行う

- オプション設定の方法や、FOMAバイトカウンタの使い方については、「FOMAバイトカウンタ操作マニュアル」をご覧ください。

14 操作6の「FOMAドライバインストールツール」画面で［完了］をクリック

- 「FOMA通信設定ファイルを確認する」に進み、インストールされたデバイス名を確認してください。

おしらせ

- インストールには数分かかることがあります。
- Windowsを再起動する旨の画面が表示されたときは、画面の指示に従い、再起動してください。
- FOMA 通信設定ファイルのインストール前にパソコンとFOMA端末を接続すると、自動的に別のドライバがインストールされる場合があります。その場合、操作 2 でアンインストールする必要がある旨のメッセージが表示されます。画面の指示に従ってアンインストールしてからFOMA通信設定ファイルをインストールしてください。

FOMA通信設定ファイルを確認する

FOMA端末がパソコンに正しく認識されない場合、設定および通信はできません。

例 Windows XPの場合

1 ［スタート］→「コントロールパネル」→［パフォーマンスとメンテナンス］→［システム］をクリック

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

■ Windows 2000の場合：
①［スタート］→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
②「システム」をダブルクリック

■ Windows Vistaの場合：
①（スタート）→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「デバイスマネージャ」をクリック▶操作3に進む

2 ［ハードウェア］タブをクリック▶［デバイスマネージャ］をクリック

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

3 各デバイスの種類をダブルクリック▶インストールされたデバイス名を確認する

次表のデバイス名がすべて表示されることを確認します。

デバイスの種類	デバイス名
ユニバーサルシリアルバスコントローラまたはUSB（Universal Serial Bus）コントローラ	FOMA D705iμ
ポート(COMとLPT)	• FOMA D705iμ Command Port（COMx）※1 • FOMA D705iμ OBEX Port（COMx）※1
モデム	FOMA D705iμ

※1：COMxのxはお使いのパソコンによって異なります。

FOMA通信設定ファイルをアンインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P4
アンインストールをする前に、必ずパソコンからFOMA端末を取り外してください。

例 Windows XPの場合

1 ［スタート］→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」をクリック

■ Windows 2000の場合：
①［スタート］→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
②「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック

■ Windows Vistaの場合：
①（スタート）→「コントロールパネル」→「プログラムのアンインストール」をクリック

2 「FOMA D705iμ USB」を選択▶［変更と削除］をクリック

■ Windows 2000の場合：
①「FOMA D705iμ USB」を選択▶［変更と削除］をクリック

■ Windows Vistaの場合：
①「FOMA D705iμ USB」を選択▶「アンインストールと変更」をクリック

3 プログラム名を確認して［はい］をクリック

FOMA 通信設定ファイルがアンインストールされます。

4 ［OK］をクリック

Windows XP、Windows 2000でFOMA PC設定ソフトを利用して通信する

FOMA 端末をパソコンに接続してパケット通信や64Kデータ通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作で次の設定ができます。

■ **かんたん設定**

ガイドに従い操作することで、「FOMAデータ通信用ダイヤルアップの作成」を行います。

■ **通信設定最適化**

Windows XP、Windows 2000 を使用する場合「FOMAパケット通信」を利用する前に、パソコン内の通信設定を最適化します。通信性能を最大限に活用するには、通信設定の最適化が必要です。

■ **接続先（APN）の設定**

「パケット通信」を行う際に必要な「接続先（APN）の設定」を行います。

FOMAパケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり、通常の電話番号は使用しません。あらかじめ接続先ごとに、FOMA端末にAPNと呼ばれる接続先名を設定し、その登録番号（cid）を接続先電話番号欄に指定して接続します。お買い上げ時、cid1 には、mopera の接続先（APN）「mopera.ne.jp」が、cid3には、mopera Uの接続先（APN）「mopera.net」が登録されていますが、その他のプロバイダや社内LANに接続する場合は接続先（APN）の設定が必要になります。

FOMA PC設定ソフトをインストールする

- FOMA PC 設定ソフト Version 4.0.0 より前の古いバージョン（以降、旧「FOMA PC設定ソフト」）がインストールされている場合には、あらかじめ旧「FOMA PC設定ソフト」をアンインストールしてください。バージョンは、FOMA PC 設定ソフトの「メニュー」→「バージョン情報」で表示できます。
- お使いのパソコンに、本機種より前に発売されたFOMA端末に付属の「W-TCP環境設定ソフト」や「FOMAデータ通信設定ソフト」がインストールされている場合は、それらのソフトをアンインストールしてください。
- FOMA PC設定ソフトを再インストールする場合は、あらかじめインストール済みのFOMA PC設定ソフトをアンインストールしてください。
- 操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P4

例 Windows XPの場合

1 付属のCD-ROMをパソコンにセット

「FOMA D705iμ CD-ROM」画面が表示されます。

2 ［データリンクソフト・各種設定ソフト］をクリック

3 「FOMA PC設定ソフト」の「インストール」をクリック

「インストール」をクリックすると、下記のような警告画面が表示される場合があります。この警告は、Microsoft Internet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。

- **「ファイルのダウンロード－セキュリティの警告」画面が表示された場合**

  ［実行］（Windows 2000 では［開く］）をクリックしてください。

- **「Internet Explorer － セキュリティの警告」画面が表示された場合**

  ［実行する］をクリックしてください。

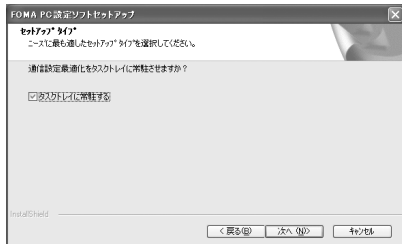
4 ［次へ］をクリック

FOMA PC設定ソフトの使用許諾契約が表示されます。

5 内容を確認の上、契約内容に同意する場合は［はい］をクリック

6 「タスクトレイに常駐する」を選択して［次へ］をクリック

セットアップ後、タスクトレイに「通信設定最適化」が常駐します。

- インストール後に常駐の設定は変更できます。

7 インストール先を確認して［次へ］をクリック

8 プログラムフォルダのフォルダ名を確認して［次へ］をクリック

9 ［完了］をクリック

FOMA PC設定ソフトが起動します。

- このまま各種設定を始められます。

おしらせ

● インストールの途中で［キャンセル］や［いいえ］をクリックしたときは、インストールを中断する確認画面が表示されます。インストールを継続する場合は［いいえ］をクリックしてください。中断する場合は［はい］をクリックし［完了］をクリックしてください。

かんたん設定でパケット通信を設定する

設定はFOMA端末をパソコンに正しく接続してから行ってください。☛P4

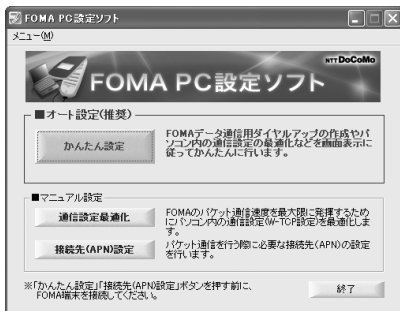
FOMA PC設定ソフトを起動する

例 Windows XPの場合

1 ［スタート］→「すべてのプログラム」→「FOMA PC設定ソフト」→「FOMA PC設定ソフト」をクリック

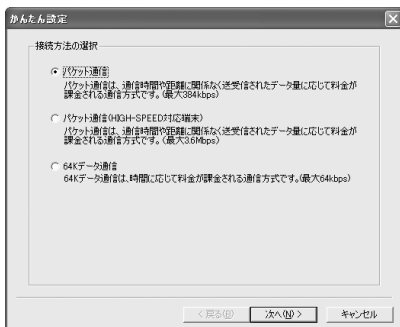
■ Windows 2000の場合：

① ［スタート］→「プログラム」→「FOMA PC設定ソフト」→「FOMA PC設定ソフト」をクリック

FOMA PC設定ソフトが起動します。

mopera U / moperaを利用する場合

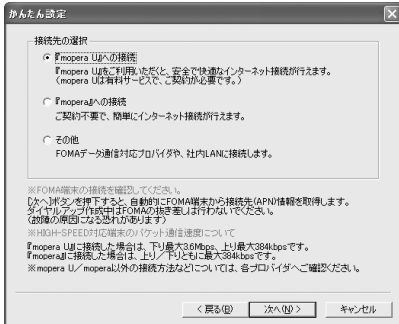
- その他のプロバイダの場合☛P10

例 Windows XPの場合

1 FOMA PC設定ソフトを起動▶［かんたん設定］をクリック

2 「パケット通信」を選択▶［次へ］をクリック

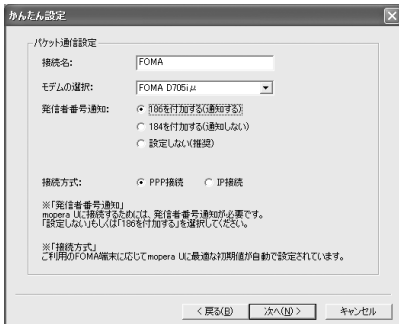
つづく▶

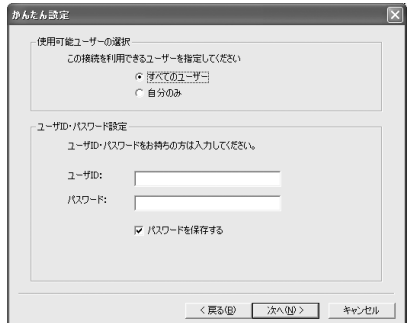
3 「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択▶［次へ］をクリック

- mopera Uを選択したときは、ご契約の確認メッセージが表示されます。ご契約がお済みの場合は［はい］をクリックします。

4 「FOMA端末設定取得」画面で［OK］をクリック

FOMA端末から「接続先（APN）情報」を取得します。しばらくお待ちください。

5 任意の接続名と各項目を設定▶［次へ］をクリック

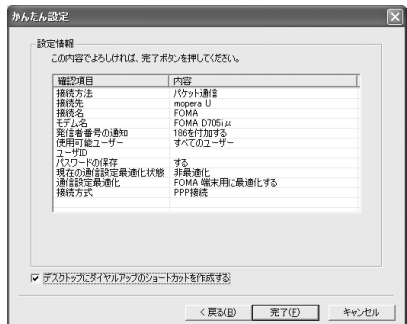
- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ￥/:＊?!<>｜”
- 「発信者番号通知」は、「186を付加する（通知する）」または「設定しない（推奨）」を選択してください。mopera Uまたはmoperaに接続するためには発信者番号通知が必要です。
- 「接続方式」には最適な値が設定されます。

6 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」は空欄でも接続できます。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

7 「最適化を行う」が選択されていることを確認して［次へ］をクリック

- 既に最適化されている場合、この画面は表示されません。

8 設定情報を確認して［完了］をクリック

確認項目	内容
接続方法	パケット通信
接続先	mopera U
接続名	FOMA
モデム名	FOMA D705iμ
発信者番号の通知	186を付加する
使用可能ユーザー	すべてのユーザー
ユーザID	
パスワードの保存	する
現在の通信設定最適化状態	非最適化
通信設定最適化	FOMA 端末用に最適化する
接続方式	PPP接続

つづく▶

9 ［OK］をクリック

再起動をする旨の画面が表示された場合は［はい］をクリックしてください。

- 通信を実行する☛P13

その他のプロバイダを利用する場合

- mopera U / moperaの場合☛P8

例 Windows XPの場合

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / moperaを利用する場合」の操作1～4を行う☛P8

- 操作2の接続方法は「パケット通信」を選択します。
- 操作3の接続先は「その他」を選択します。

2 任意の接続名を入力▶［接続先（APN）設定］をクリック

- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ¥/:＊?!<>｜”
- 「発信者番号通知」については、ご利用になるプロバイダの指示情報に従ってください。

■ 高度な設定（TCP/IPの設定）：

［詳細情報の設定］をクリックすると「IPアドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。

- ダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、プロバイダなどから提供された各種情報をもとにアドレスなどを登録してください。

3 接続先（APN）を設定

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」が、cid3には「mopera.net」が設定されています。cid2、4～10に接続先（APN）を登録してください。

① ［追加］をクリック

「接続先（APN）の追加」画面が表示されます。

② ご利用のプロバイダなどのFOMAパケット網に対応した接続先（APN）と接続方式を設定▶［OK］をクリック

「接続先（APN）設定」画面に戻ります。

- 「接続先（APN）」には半角で、英数字、ハイフン（-）、ピリオド（.）のみ入力できます。
- 本端末は「PPP接続」のみ対応していますので、「接続方式」は「PPP接続」を選択してください。対応する接続方式については、ご利用になるプロバイダに確認してください。

4 ［OK］をクリック

操作2の画面に戻ります。「接続先（APN）の選択」には、操作3で設定した接続先（APN）と接続方式が表示されます。

5 「接続先（APN）の選択」の接続先（APN）を確認して［次へ］をクリック

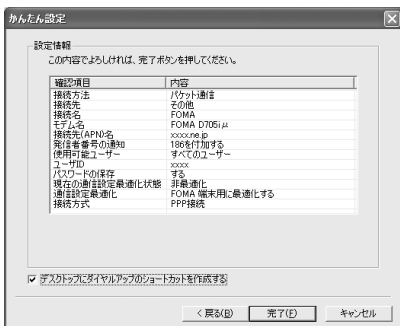
6 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」には、プロバイダなどから提供された各種情報を、大文字、小文字などに注意して入力してください。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

つづく▶

7 「最適化を行う」が選択されていることを確認して［次へ］をクリック

- 既に最適化されている場合には、この画面は表示されません。

8 設定情報を確認して［完了］をクリック

9 ［OK］をクリック

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動します。再起動をする旨の画面が表示された場合は［はい］をクリックしてください。

- 既に最適化されている場合は、再起動する必要はありません。
- 通信を実行する☛P13

かんたん設定で64Kデータ通信を設定する

設定はFOMA端末をパソコンに正しく接続してから行ってください。☛P4

mopera U / moperaを利用する場合

- その他のプロバイダの場合☛P12

例 Windows XPの場合

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / moperaを利用する場合」の操作1～3を行う☛P8

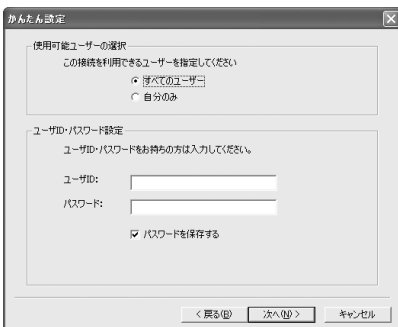
- 操作2の接続方法は「64Kデータ通信」を選択します。
- 操作3の接続先は「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択します。

2 任意の接続名と各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ￥/:＊?!<> | ”
- 「モデムの選択」が「FOMA D705iμ」に設定されていることを確認します。
- ダイヤルアップ時に発信者番号通知をするかどうかを選択してください。mopera Uおよびmopera接続では発信者番号通知が必要です。

3 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」については空欄でも接続できます。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

つづく▶

4 設定情報を確認して［完了］をクリック

5 ［OK］をクリック

- 通信を実行する☛P13

その他のプロバイダを利用する場合

- mopera U / moperaの場合☛P11

例 Windows XPの場合

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / moperaを利用する場合」の操作1～3を行う☛P8

- 操作2の接続方法は「64Kデータ通信」を選択します。
- 操作3の接続先は「その他」を選択します。

2 任意の接続名と各項目を設定▶［次へ］をクリック

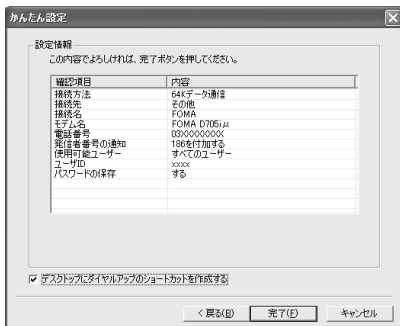
- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ￥/:＊?!<> | ”
- 「モデムの選択」が「FOMA D705iμ」に設定されていることを確認します。
- 「電話番号」「発信者番号通知」については、ご利用になるプロバイダの指示情報に従ってください。

■ 高度な設定（TCP/IPの設定）：
［詳細情報の設定］をクリックすると「IPアドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。

- ダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、プロバイダなどから提供された各種情報をもとにアドレスなどを登録してください。

3 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」には、プロバイダなどから提供された各種情報を、大文字、小文字などに注意して入力してください。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

4 設定情報を確認して［完了］をクリック

5 ［OK］をクリック

- 通信を実行する☛P13

通信を実行する

FOMA PC設定ソフトで設定した通信の実行や切断について説明します。

例 Windows XPの場合

1 FOMA端末とパソコンを接続する ☛P4

2 デスクトップの接続アイコンをダブルクリック

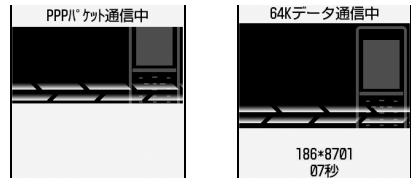
- アイコンはOSによって異なります。
- デスクトップに接続アイコンを作成しなかった場合は、スタートメニューから起動します。

■ Windows XPのスタートメニューから起動：
①［スタート］→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック
②接続先をダブルクリック

■ Windows 2000のスタートメニューから起動：
①［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリック
②接続先をダブルクリック

3 各項目を確認して[ダイヤル]をクリック

- mopera U / moperaを選択した場合は「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。
- ご加入のプロバイダなどの指示により必要な場合は、入力指示情報をもとに「ユーザー名」「パスワード」を入力して［ダイヤル］をクリックします。
- OSによっては、接続完了画面が表示されることがあります。[OK]をクリックしてください。

■ 通信中のFOMA端末画面
パケット通信を実行すると発信中画面、64Kデータ通信を実行すると呼出中画面がそれぞれ表示され、接続すると次の画面が表示されます。

おしらせ

- パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。
- データ通信を実行する場合、接続アイコン作成時のFOMA端末を接続した場合のみ有効です。
- D705iμ以外のFOMA端末を接続する場合は、ご利用になるFOMA端末のFOMA通信設定ファイルをインストールする必要があります。

通信を切断するには

ブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作を行ってください。

例 Windows XPの場合

1 タスクトレイのをクリック

2 [切断] をクリック

パケット通信の設定を最適化する

「通信設定最適化」を利用してパソコンのパケット通信の設定をFOMAネットワーク用に最適化します。「通信設定最適化」とはFOMAネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IPの伝送能力を最適化するための「TCPパラメータ設定ツール」です。FOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、この通信設定最適化が必要です。

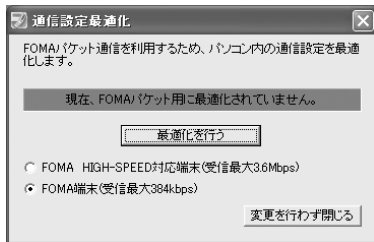
Windows XPの場合

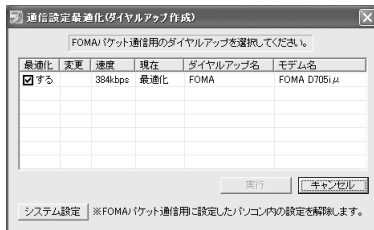
ダイヤルアップごとに最適化できます。

1 FOMA PC設定ソフトを起動☛P8▶［通信設定最適化］をクリック

■ タスクトレイから起動：をクリック

2 次の操作を行う

■ **システム設定が最適化されていないとき：**
次の画面が表示されます。

①「FOMA端末（受信最大384kbps）」を選択し、［最適化を行う］をクリック
②最適化するダイヤルアップを選択▶［実行］をクリック
システム設定とダイヤルアップ設定のそれぞれの最適化が実行されます。

■ **システム設定が最適化されているとき：**
次の画面が表示されます。内容を変更する場合はチェック欄を変更し［実行］をクリックしてください。

3 画面に従ってパソコンを再起動

• 設定した内容は再起動後に有効になります。

Windows 2000の場合

1 FOMA PC設定ソフトを起動☛P8▶［通信設定最適化］をクリック

■ タスクトレイから起動：をクリック

2 ［最適化を行う］をクリック

3 画面に従ってパソコンを再起動する

• 設定した内容は再起動後に有効になります。

最適化を解除する

• 64Kデータ通信を行う場合や、FOMA端末以外で通信を行う場合は、最適化を解除してください。

Windows XPの場合

1 FOMA PC設定ソフトを起動☛P8▶［通信設定最適化］をクリック

■ タスクトレイから起動：をクリック

2 最適化を解除する接続先のチェックを外す▶［実行］をクリック

• 3.6Mbps用に最適化されている場合は、この画面は表示されません。［最適化を解除する］をクリックしてください。

3 ［OK］をクリック

Windows 2000の場合

1 FOMA PC設定ソフトを起動☛P8▶［通信設定最適化］をクリック

■ タスクトレイから起動：をクリック

2 ［最適化を解除する］をクリック

3 画面に従ってパソコンを再起動する

• 設定した内容は再起動後に有効になります。

接続先（APN）を設定する

パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。

接続先（APN）は最大10件設定でき、登録番号（cid）の1～10に登録して管理します。

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が設定されています。

- 設定を行う前にFOMA端末とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。☛P4
- mopera U / mopera以外の接続先（APN）については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

例 Windows XPの場合

1 FOMA PC設定ソフトを起動☛P8▶[接続先（APN）設定］をクリック

「FOMA端末設定取得」画面が表示されます。

2 [OK］をクリック

FOMA端末に登録されている「接続先（APN）情報」を読み込みます。

3 接続先（APN）の設定を行う

■ **接続先（APN）を追加する：[追加］をクリック**

■ **登録済みの接続先（APN）を編集または修正する：対象の接続先（APN）を一覧から選択▶[編集］をクリック**

■ **登録済みの接続先（APN）を削除する：対象の接続先（APN）を一覧から選択▶[削除］をクリック**

- cid1 と cid3 に登録されている接続先は削除できません（cid1またはcid3を選択して[削除］をクリックしても、実際には削除されず、元に戻ります）。

■ **ファイルへ保存する：「ファイル」→「名前を付けて保存」または「上書き保存」をクリック**

- FOMA端末に登録された接続先（APN）設定のバックアップを取ったり、編集中の接続先（APN）設定を保存するときに利用します。

■ **ファイルから読み込む：「ファイル」→「開く」をクリック**

- パソコンに保存された接続先（APN）設定を再編集したり、FOMA端末に書き込んだりするときに利用します。

■ **FOMA端末から接続先（APN）情報を読み込む：「ファイル」→「FOMA端末から設定を取得」をクリック**

FOMA端末に手動でアクセスし、登録された接続先（APN）設定を読み込みます。

■ **FOMA端末へ接続先（APN）情報を書き込む：[FOMA端末へ設定を書き込む］をクリック**

表示されている接続先（APN）設定がFOMA端末に書き込まれます。

■ **ダイヤルアップを作成する：**

① **追加、編集された接続先（APN）を選択▶[ダイヤルアップ作成］をクリック**

「FOMA端末設定書き込み」画面が表示されます。

② **[はい］をクリック▶[OK］をクリック**

「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面が表示されます。

③ **任意の接続名を入力し、発信者番号の通知方法を選択▶[ユーザID・パスワードの設定］をクリック**

④ **各項目を設定▶[OK］をクリック**

- mopera U / moperaの場合は空欄でも接続できます。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。
- ご利用のプロバイダなどから、IP および DNS 情報の設定が指示されている場合は、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面で［詳細情報の設定］をクリックし、必要な情報を登録後、[OK］をクリックしてください。

⑤ **[OK］をクリック▶[OK］をクリック**

⑥ **[FOMA端末へ設定を書き込む］をクリック**

上書きするかどうかの確認画面が表示されます。

⑦ **[はい］をクリック▶[OK］をクリック**

おしらせ

- 接続先（APN）設定はFOMA端末に登録される情報のため、異なるFOMA端末（故障修理により交換された端末など）を接続する場合は、APNを登録し直してください。
- パソコンに登録されている接続先（APN）を継続利用する場合は、同じAPNの登録番号（cid）をFOMA端末に登録してください。

FOMA PC設定ソフトをアンインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P4

アンインストールを実行する前に

タスクトレイのを右クリックし、「終了」をクリックして、「通信設定最適化」を終了してください。

アンインストールする

例 Windows XPの場合

1 [スタート]→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」をクリック

■ Windows 2000の場合：
① [スタート]→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
②「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック

2 「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択▶[削除]をクリック

■ Windows 2000の場合：
①「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択▶[変更と削除]をクリック

3 削除するプログラム名を確認して[はい]をクリック

FOMA PC設定ソフトのアンインストールを開始します。

■「通信設定最適化」を解除する：
通信設定が最適化されている場合は確認画面が表示されます。
- 通常は[はい]をクリックして、最適化を解除してください。
- 再起動の確認画面が表示されたら、今すぐ再起動するかどうかを選び[完了]をクリックします。
- 「通信設定最適化」の解除は、パソコンの再起動後に行われます。

4 [完了]をクリック

Windows VistaでFOMA PC設定ソフトを利用して通信する

FOMA端末をパソコンに接続してパケット通信や64Kデータ通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作で次の設定ができます。

■ かんたん設定
ガイドに従い操作することで、「FOMAデータ通信用ダイヤルアップの作成」を行います。

■ 接続先（APN）の設定
「パケット通信」を行う際に必要な「接続先（APN）の設定」を行います。
FOMAパケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり、通常の電話番号は使用しません。あらかじめ接続先ごとに、FOMA端末にAPNと呼ばれる接続先名を設定し、その登録番号（cid）を接続先電話番号欄に指定して接続します。お買い上げ時、cid1には、moperaの接続先（APN）「mopera.ne.jp」が、cid3には、mopera Uの接続先（APN）「mopera.net」が登録されていますが、その他のプロバイダや社内LANに接続する場合は接続先（APN）の設定が必要になります。

FOMA PC設定ソフトをインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P4

1 付属のCD-ROMをパソコンにセット

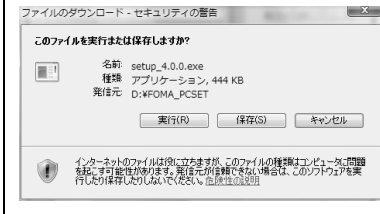
「FOMA D705iμ CD-ROM」画面が表示されます。

2 [データリンクソフト・各種設定ソフト]をクリック

つづく▶

3 「FOMA PC設定ソフト」の「インストール」をクリック

「インストール」をクリックすると、下記のような警告画面が表示される場合があります。この警告は、Microsoft Internet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。

- **「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」画面が表示された場合**
  ［実行］をクリックしてください。

4 ［次へ］をクリック

FOMA PC設定ソフトの使用許諾契約が表示されます。

5 内容を確認の上、契約内容に同意する場合は［はい］をクリック

6 インストール先を確認して［次へ］をクリック

7 プログラムフォルダのフォルダ名を確認して［次へ］をクリック

8 ［完了］をクリック

FOMA PC設定ソフトが起動します。

- このまま各種設定を始められます。

おしらせ

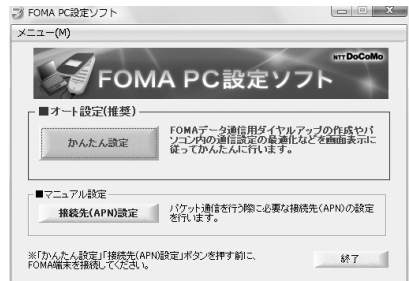
- インストールの途中で［キャンセル］や［いいえ］をクリックしたときは、インストールを中断する確認画面が表示されます。インストールを継続する場合は［いいえ］をクリックしてください。中断する場合は［はい］をクリックし［完了］をクリックしてください。

かんたん設定でパケット通信を設定する

設定はFOMA端末をパソコンに正しく接続してから行ってください。☛P4

FOMA PC設定ソフトを起動する

1 (スタート)→「すべてのプログラム」→「FOMA PC設定ソフト」→「FOMA PC設定ソフト」をクリック

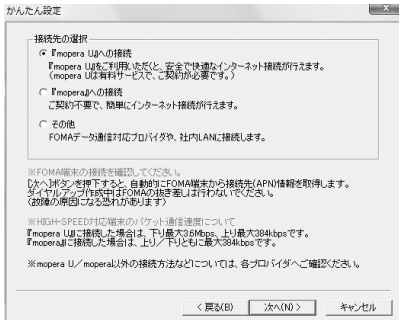
FOMA PC設定ソフトが起動します。

mopera U / moperaを利用する場合

- その他のプロバイダの場合☛P18

1 FOMA PC設定ソフトを起動▶［かんたん設定］をクリック

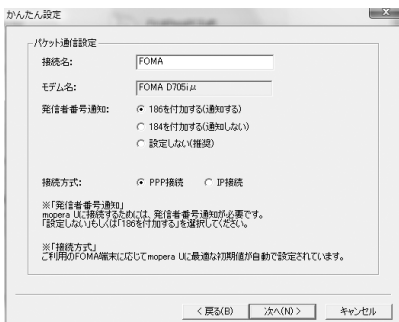
2 「パケット通信」を選択▶［次へ］をクリック

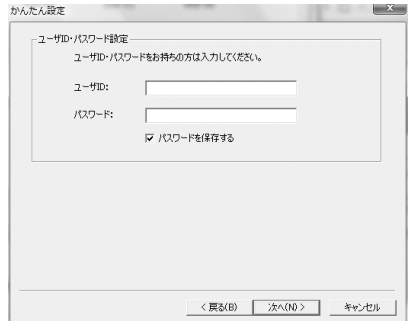
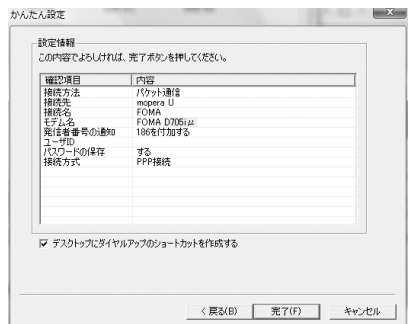
3 「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択▶［次へ］をクリック

- mopera Uを選択したときは、ご契約の確認メッセージが表示されます。ご契約がお済みの場合は［はい］をクリックします。

4 「FOMA端末設定取得」画面で［OK］をクリック

FOMA端末から「接続先（APN）情報」を取得します。しばらくお待ちください。

5 任意の接続名と各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ¥/:＊?!<>｜"
- 「発信者番号通知」は、「186を付加する（通知する）」または「設定しない（推奨）」を選択してください。mopera Uまたはmoperaに接続するためには発信者番号通知が必要です。
- 「接続方式」には最適な値が設定されます。

6 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」は空欄でも接続できます。

7 設定情報を確認して［完了］をクリック

8 ［OK］をクリック

- 通信を実行する☛P21

その他のプロバイダを利用する場合

- mopera U / moperaの場合☛P17

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / moperaを利用する場合」の操作1～4を行う☛P17

- 操作2の接続方法は「パケット通信」を選択します。
- 操作3の接続先は「その他」を選択します。

2 任意の接続名を入力▶［接続先（APN）設定］をクリック

- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ￥/:＊?!<>｜”
- 発信者番号通知の設定については、ご利用になるプロバイダの指示情報に従ってください。

■ 高度な設定（TCP/IPの設定）：

［詳細情報の設定］をクリックすると「IPアドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。

- ダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、プロバイダなどから提供された各種情報をもとにアドレスなどを登録してください。

3 接続先（APN）を設定

お買い上げ時、cid1 には「mopera.ne.jp」が、cid3には「mopera.net」が設定されています。cid 2、4～10に接続先（APN）を登録してください。

① ［追加］をクリック

「接続先（APN）の追加」画面が表示されます。

② ご利用のプロバイダなどの FOMA パケット網に対応した接続先（APN）と接続方式を設定▶［OK］をクリック

「接続先（APN）設定」画面に戻ります。

- 「接続先（APN）」には半角で、英数字、ハイフン（ - ）、ピリオド（ . ）のみ入力できます。
- 本端末は「PPP接続」のみ対応していますので、「接続方式」は「PPP接続」を選択してください。対応する接続方式については、ご利用になるプロバイダに確認してください。

4 ［OK］をクリック

操作２の画面に戻ります。「接続先（APN）の選択」には、操作3で設定した接続先（APN）と接続方式が表示されます。

5 「接続先(APN)の選択」の接続先(APN)を確認して［次へ］をクリック

6 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」には、プロバイダなどから提供された各種情報を、大文字、小文字などに注意して入力してください。

つづく▶

7 設定情報を確認して［完了］をクリック

8 ［OK］をクリック

- 通信を実行する☛P21

かんたん設定で64Kデータ通信を設定する

設定はFOMA端末をパソコンに正しく接続してから行ってください。☛P4

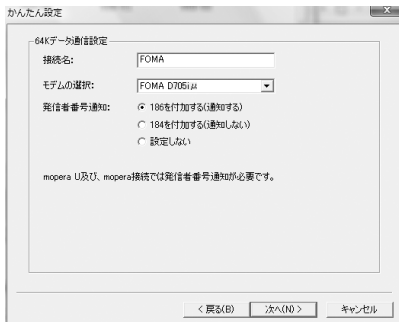
mopera U / moperaを利用する場合

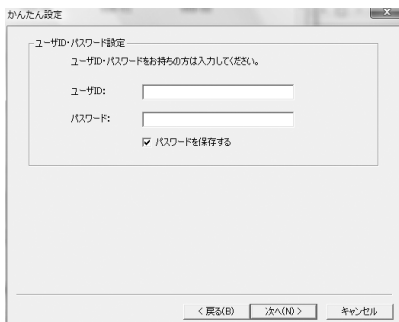
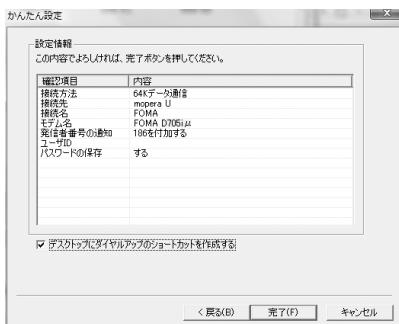
- その他のプロバイダの場合☛P21

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / moperaを利用する場合」の操作1～3を行う☛P17

- 操作2の接続方法は「64Kデータ通信」を選択します。
- 操作3の接続先は「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択します。

2 任意の接続名と各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。￥/:＊?!<>｜”
- 「モデムの選択」が「FOMA D705iμ」に設定されていることを確認します。
- ダイヤルアップ時に発信者番号通知をするかどうかを選択してください。mopera Uおよびmopera接続では発信者番号通知が必要です。

3 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」については空欄でも接続できます。

4 設定情報を確認して［完了］をクリック

5 ［OK］をクリック

- 通信を実行する☛P21

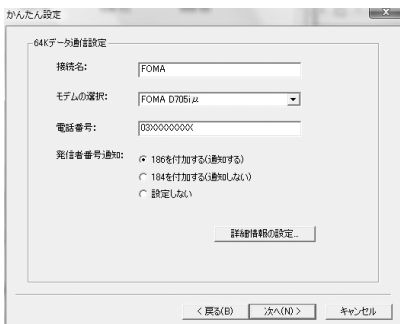
その他のプロバイダを利用する場合

- mopera U / moperaの場合☛P20

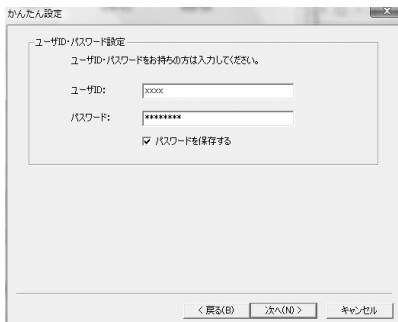
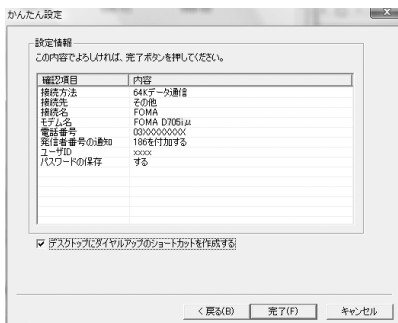
1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / moperaを利用する場合」の操作1～3を行う☛P17

- 操作2の接続方法は「64Kデータ通信」を選択します。
- 操作3の接続先は「その他」を選択します。

2 任意の接続名と各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ￥/:＊?!<>｜”
- 「モデムの選択」が「FOMA D705iμ」に設定されていることを確認します。
- 「電話番号」「発信者番号通知」については、ご利用になるプロバイダの指示情報に従ってください。

■ 高度な設定（TCP/IPの設定）：
［詳細情報の設定］をクリックすると「IPアドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。
- ダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、プロバイダなどから提供された各種情報をもとにアドレスなどを登録してください。

3 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 「ユーザID」「パスワード」には、プロバイダなどから提供された各種情報を、大文字、小文字などに注意して入力してください。

4 設定情報を確認して［完了］をクリック

5 ［OK］をクリック

- 通信を実行する☛P21

通信を実行する

FOMA PC設定ソフトで設定した通信の実行や切断について説明します。

1 FOMA端末とパソコンを接続する☛P4

2 デスクトップの接続アイコンをダブルクリック

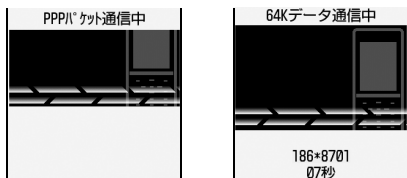
- デスクトップに接続アイコンを作成しなかった場合は、スタートメニューから起動します。
  ①（スタート）→「接続先」をクリック
  ②接続先をダブルクリック

つづく▶

3 各項目を確認して[ダイヤル]をクリック

- mopera U / moperaを選択した場合は「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。
- ご加入のプロバイダなどの指示により必要な場合は、入力指示情報をもとに「ユーザー名」「パスワード」を入力して［ダイヤル］をクリックします。

■ 通信中のFOMA端末画面

パケット通信を実行すると発信中画面、64Kデータ通信を実行すると呼出中画面がそれぞれ表示され、接続すると次の画面が表示されます。

おしらせ

- ●パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。
- ●データ通信を実行する場合、接続アイコン作成時のFOMA端末を接続した場合のみ有効です。
- ●D705iμ以外のFOMA端末を接続する場合は、ご利用になるFOMA端末のFOMA通信設定ファイルをインストールする必要があります。

通信を切断するには

ブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作を行ってください。

1 (スタート) →「接続先」をクリック

2 接続しているダイヤルアップを選択▶［切断］をクリック

3 ［閉じる］をクリック

接続先（APN）を設定する

パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。

接続先（APN）は最大10件設定でき、登録番号（cid）の1～10に登録して管理します。

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が設定されています。

- 設定を行う前にFOMA端末とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。☛P4
- mopera U / mopera以外の接続先（APN）については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 FOMA PC設定ソフトを起動☛P17▶［接続先（APN）設定］をクリック

「FOMA端末設定取得」画面が表示されます。

2 ［OK］をクリック

FOMA端末に登録されている「接続先（APN）情報」を読み込みます。

3 接続先（APN）の設定を行う

つづく▶

■ 接続先（APN）を追加する：[追加] をクリック

■ 登録済みの接続先（APN）を編集または修正する：対象の接続先（APN）を一覧から選択▶［編集］をクリック

■ 登録済みの接続先（APN）を削除する：対象の接続先（APN）を一覧から選択▶［削除］をクリック
- cid1 と cid3 に登録されている接続先は削除できません（cid1またはcid3を選択して［削除］をクリックしても、実際には削除されず、元に戻ります）。

■ ファイルへ保存する：「ファイル」→「名前を付けて保存」または「上書き保存」をクリック
- FOMA端末に登録された接続先（APN）設定のバックアップを取ったり、編集中の接続先（APN）設定を保存するときに利用します。

■ ファイルから読み込む：「ファイル」→「開く」をクリック
- パソコンに保存された接続先（APN）設定を再編集したり、FOMA端末に書き込んだりするときに利用します。

■ FOMA端末から接続先（APN）情報を読み込む：「ファイル」→「FOMA端末から設定を取得」をクリック

FOMA端末に手動でアクセスし、登録された接続先（APN）設定を読み込みます。

■ FOMA端末へ接続先（APN）情報を書き込む：［FOMA端末へ設定を書き込む］をクリック

表示されている接続先（APN）設定がFOMA端末に書き込まれます。

■ ダイヤルアップを作成する：

①追加、編集された接続先（APN）を選択▶［ダイヤルアップ作成］をクリック

「FOMA端末設定書き込み」画面が表示されます。

②［はい］をクリック▶［OK］をクリック

「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面が表示されます。

③任意の接続名を入力し、発信者番号の通知方法を選択▶［ユーザID・パスワードの設定］をクリック

④各項目を設定▶［OK］をクリック
- mopera U / moperaの場合は空欄でも接続できます。
- ご利用のプロバイダなどから、IP および DNS 情報の設定が指示されている場合は、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面で［詳細情報の設定］をクリックし、必要な情報を登録後、［OK］をクリックしてください。

⑤［OK］をクリック▶［OK］をクリック

⑥［FOMA端末へ設定を書き込む］をクリック

上書きするかどうかの確認画面が表示されます。

⑦［はい］をクリック▶［OK］をクリック

おしらせ

- 接続先（APN）設定はFOMA端末に登録される情報のため、異なるFOMA端末（故障修理により交換された端末など）を接続する場合は、APNを登録し直してください。
- パソコンに登録されている接続先（APN）を継続利用する場合は、同じAPNの登録番号（cid）をFOMA端末に登録してください。

FOMA PC設定ソフトをアンインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P4

1 （スタート）→「コントロールパネル」→「プログラムのアンインストール」をクリック

2 「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択▶［アンインストール］をクリック

3 削除するプログラム名を確認して［はい］をクリック

FOMA PC設定ソフトのアンインストールを開始します。

4 ［完了］をクリック

FOMA PC設定ソフトを利用しないで通信する

FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信／64K データ通信のダイヤルアップネットワークの設定を行う方法について説明します。

設定操作の流れ

①FOMA通信設定ファイルのダウンロード、インストール☛P5
- 付属のCD-ROMからインストール
  または
- ドコモのホームページからダウンロードし、インストール

②パソコンとFOMA端末の接続☛P4
③FOMA通信設定ファイルの確認☛P6

▼

接続先（APN）の設定※1☛P24
（64Kデータ通信の場合、パケット通信の接続先がmopera U / moperaの場合は、設定不要）

▼

発信者番号通知／非通知の設定※1☛P25
（必要に応じて設定）

▼

その他の設定（ATコマンド）※1☛P33
（必要に応じて設定）

▼

ダイヤルアップネットワークの設定

ご使用のOS	設定	
	接続先	TCP/IP
Windows XP	P26	P27
Windows 2000	P28	P29
Windows Vista	P30	P31

- 設定内容の詳細については、プロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。

▼

接続☛P32／切断☛P32

※1：Windows Vistaでは、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。

おしらせ

● 操作の途中で「既定の Telnetプログラムにする旨のメッセージが表示された場合は、［はい］または［いいえ］をクリックしてください。
● 操作の途中で「所在地情報」画面が表示された場合は、所在地のダイヤル情報を設定し［OK］をクリックします。設定したダイヤル情報が「電話とモデムのオプション」画面に表示されますので［OK］をクリックしてください。

パケット通信の接続先（APN）を設定する

設定を行うには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここではWindows XP、Windows 2000の「ハイパーターミナル」を使った設定方法を説明します。Windows Vista は「ハイパーターミナル」に対応していません。Windows Vistaの場合は、Windows Vista 対応のソフトを使って設定してください（ご使用になるソフトの設定方法に従ってください）。

お買い上げ時　cid1：mopera.ne.jp
cid3：mopera.net
cid2、4～10：未登録

例　Windows XPの場合

1 **パソコンとFOMA端末を接続する☛P4**

2 **［スタート］→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」をクリック**

- Windows 2000の場合は、「すべてのプログラム」が「プログラム」と表示されます。

3 **「名前」に接続先名など任意の名前を入力▶［OK］をクリック**

つづく▶

4 「電話番号」に実在しない電話番号（「0」など）を仮入力し、「接続方法」から「FOMA D705iμ」を選択▶［OK］をクリック

- 市外局番は接続先（APN）の設定とは関係ありませんので、変更不要です。

5 接続画面が表示されたら［キャンセル］をクリック

6 接続先（APN）を入力▶⏎を押す

- 「AT+CGDCONT=<cid>, "PPP", "APN"」の形式で入力します。

<cid>：2、4～10の任意の番号を入力します。
"PPP"：そのまま"PPP"と入力します。
"APN"：接続先（APN）を" "で囲んで入力します。

「OK」と表示されれば、接続先（APN）の設定は完了です。

■ 接続先（APN）設定をリセットするとき：
AT+CGDCONT=⏎
すべてのcidをリセットします。
- <cid>=1と3はお買い上げ時の設定に戻り、<cid>=2、4～10の設定は未登録になります。

AT+CGDCONT=<cid>⏎
特定のcidをリセットします。

■ 接続先（APN）設定を確認するとき：
AT+CGDCONT?⏎

■ ATコマンドを入力しても画面に表示されないとき：ATE1⏎
- 詳細☛P37

7 「OK」と表示されていることを確認し、「ファイル」→「ハイパーターミナルの終了」をクリック

- 「現在、接続されています。切断してもよろしいですか？」の表示後に［はい］をクリックします。
- 「"XXX"と名前付けされた接続を保存しますか？」または「セッション"XXX"を保存しますか？」の表示後に［いいえ］をクリックします。

接続先（APN）と登録番号（cid）について

パケット通信の接続先（APN）は、FOMA端末の登録番号cid1～10に設定できます。お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が登録されています。その他のプロバイダや社内LANなどに接続する場合は、cid2、4～10に接続先（APN）を登録してください。

- 接続先（APN）については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 接続先の設定は、パケット通信用の電話帳登録と考えられます。接続先の設定項目をFOMA端末電話帳と比較すると、次のようになります。

接続先の設定項目	FOMA端末電話帳の登録項目
登録番号（cid）	登録番号（メモリ番号）
APN	相手の電話番号

- 登録したcidはダイヤルアップ接続設定での接続番号となります。

発信者番号の通知／非通知を設定する

発信者番号はお客様の大切な情報なので、通知する際には十分にご注意ください。

- mopera U / moperaをご利用になる場合は、「通知」に設定します。

お買い上げ時 設定なし

例 Windows XPの場合

1 「パケット通信の接続先（APN）を設定する」の操作1～5を行う☛P24

2 パケット通信時の発信者番号の通知（186）／非通知（184）を設定

「AT＊DGPIR=<n>」の形式で入力します。

AT＊DGPIR=1 ↵

パケット通信確立時、接続先（APN）に「184」を付けて接続します。

AT＊DGPIR=2 ↵

パケット通信確立時、接続先（APN）に「186」を付けて接続します。

■ ATコマンドを入力しても画面に表示されないとき：ATE1 ↵

- 詳細☞P37

3 「OK」と表示されていることを確認し、[ファイル]→「ハイパーターミナルの終了」をクリック

- 「現在、接続されています。切断してもよろしいですか？」の表示後に[はい]をクリックします。
- 「“XXX”と名前付けされた接続を保存しますか?」または「セッション“XXX”を保存しますか？」の表示後に［いいえ］をクリックします。

ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について

ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に「186」（通知）／「184」（非通知）を付けられます。
AT＊DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で「186」（通知）／「184」（非通知）の設定を行った場合、発信者番号の通知／非通知は次のようになります。

AT＊DGPIRコマンドによる通知／非通知設定 ／ ダイヤルアップネットワークの設定（<cid>=3の場合）	設定なし	非通知	通知
＊99＊＊＊3#	通知	非通知	通知
184＊99＊＊＊3#	非通知		
186＊99＊＊＊3#	通知		

- AT＊DGPIRコマンドによる通知／非通知設定を「設定なし」に戻すには、「AT＊DGPIR=0」と入力してください。

Windows XPでダイヤルアップネットワークを設定する

- パソコンとFOMA端末を接続（☞P4）してから操作してください。

接続先を設定する

1 [スタート]→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

2 「ネットワークタスク」の「新しい接続を作成する」をクリック

「新しい接続ウィザード」画面が表示されます。

3 ［次へ］をクリック

ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

4 「インターネットに接続する」を選択▶［次へ］をクリック

準備画面が表示されます。

5 「接続を手動でセットアップする」を選択▶［次へ］をクリック

インターネット接続画面が表示されます。

6 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択▶［次へ］をクリック

デバイスの選択画面が表示されます。

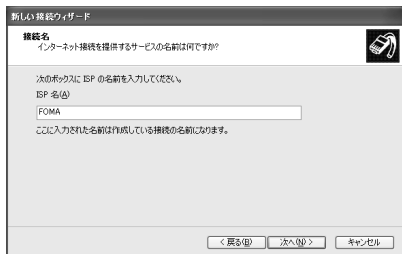
- インストールされているモデムが1台しかない場合、デバイスの選択画面は表示されません。操作8へ進みます。

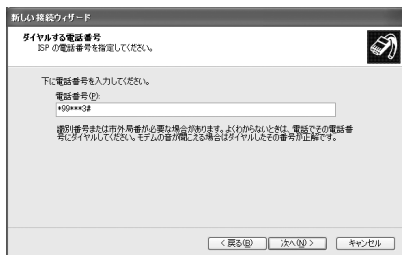
7 「モデム－FOMA D705iμ（COMx）※1」を選択▶［次へ］をクリック

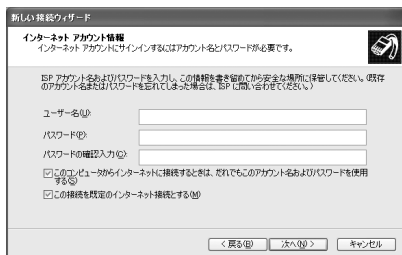
- 「モデム－FOMA D705iμ（COMx）※1」のみチェックが入っていることを確認してください。

※1：COMxのxはお使いのパソコンによって異なります。

つづく▶

8 「ISP名」に任意の接続名を入力▶［次へ］をクリック

9 「電話番号」に接続先の番号（半角）を入力▶［次へ］をクリック

- パケット通信の場合＊99＊＊＊<cid>#を入力します。
  - ・<cid>には、「パケット通信の接続先（APN）を設定する」（☛P24）で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3#、moperaは＊99＊＊＊1#となります。
- 64Kデータ通信の場合、接続先の電話番号を入力します。
  - ・mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。

10 各項目を設定▶［次へ］をクリック

- 接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」「パスワードの確認入力」については空欄でも接続できます。他の項目は必要に応じて設定します。

11 ［完了］をクリック

12 設定内容を確認して［キャンセル］をクリック

- ここではすぐに接続せずに、設定の確認だけを行います。

TCP/IPプロトコルを設定する

1 作成した接続先を選択▶「ファイル」→「プロパティ」をクリック

2 ［全般］タブの各項目の設定を確認

- 複数のモデムがインストールされている場合は、「接続方法」の「モデム－FOMA D705iμ（COMx）※1」を選択します。
- 「モデム－FOMA D705iμ（COMx）※1」のみチェックが入っていることを確認してください。

  ※1：COMxのxはお使いのパソコンによって異なります。
- 「ダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。

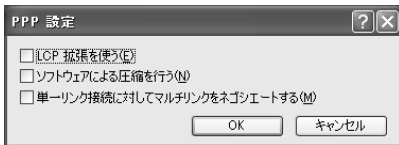
つづく▶

3 [ネットワーク]タブをクリック▶各項目の設定を確認

- 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」は「PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet」に設定します。
- 「この接続は次の項目を使用します」は、「インターネット プロトコル（TCP/IP）」だけを選択します。「QoSパケットスケジューラ」は変更できません。

4 [設定] をクリック

5 すべての項目を非選択（□）にして[OK] をクリック

接続先のプロパティ画面に戻ります。

6 [OK] をクリック

Windows 2000でダイヤルアップネットワークを設定する

- パソコンとFOMA端末を接続（☛P4）してから操作してください。

接続先を設定する

1 [スタート] →「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリック

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

2 [新しい接続の作成] をダブルクリック

「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されます。

3 [次へ] をクリック

ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

4 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択▶ [次へ] をクリック

「インターネット接続ウィザード」の開始画面が表示されます。

5 「インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」を選択▶[次へ] をクリック

インターネット接続の設定画面が表示されます。

6 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択▶ [次へ] をクリック

モデムの選択画面が表示されます。

- 複数のモデムがインストールされていない場合、この画面は表示されません。操作8に進みます。

7 「インターネットへの接続に使うモデムを選択する」が「FOMA D705iμ」に設定されていることを確認して [次へ] をクリック

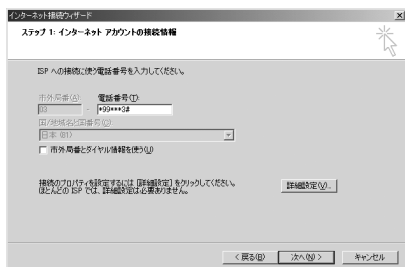
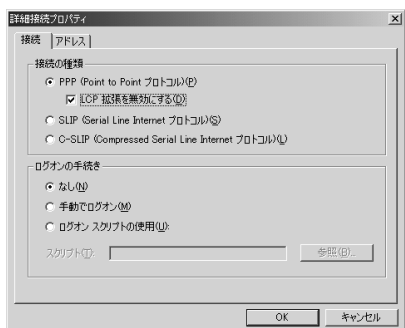
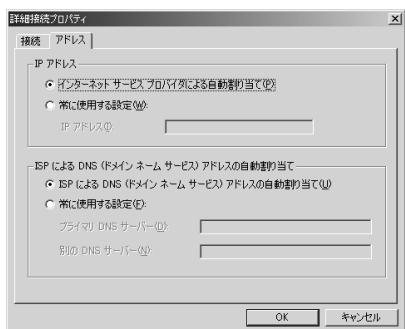
インターネットアカウントの接続情報画面が表示されます。

- 「FOMA D705iμ」に設定されていない場合は、「FOMA D705iμ」に設定してください。

8 「電話番号」に接続先の番号（半角）を入力▶ [詳細設定] をクリック

- 「市外局番とダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。
- パケット通信の場合＊ 99 ＊＊＊＜ cid ＞＃を入力します。
  - ＜cid＞には、「パケット通信の接続先（APN）を設定する」（☛P24）で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3＃、moperaは＊99＊＊＊1＃となります。

つづく▶

・64Kデータ通信の場合、接続先の電話番号を入力します。
・mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。

9 ［接続］タブの各項目を以下のように設定

10 ［アドレス］タブをクリック▶各項目を以下のように設定

11 ［OK］をクリック

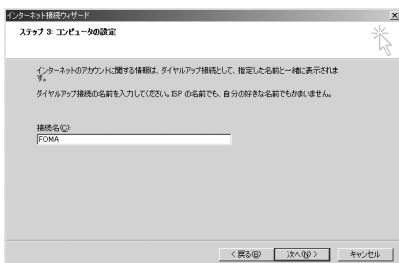
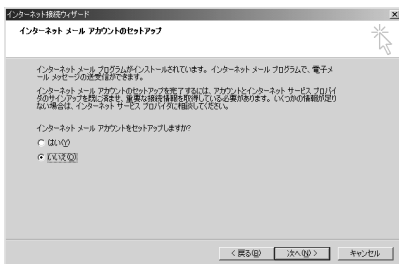
インターネットアカウントの接続情報画面に戻ります。

12 ［次へ］をクリック

インターネットアカウントのログオン情報画面が表示されます。

13 各項目を設定▶［次へ］をクリック

・接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。入力されていないことを確認する画面が表示されたら、［はい］をクリックします。

14 「接続名」に任意の接続名を入力▶［次へ］をクリック

15 「いいえ」を選択▶［次へ］をクリック

16 ［完了］をクリック

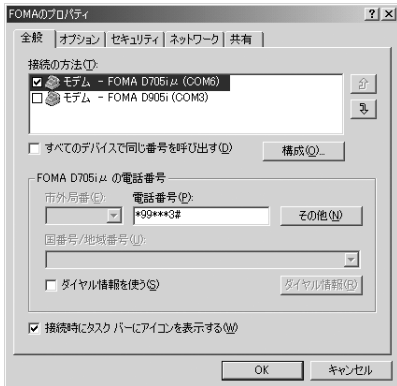
「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面に戻ります。

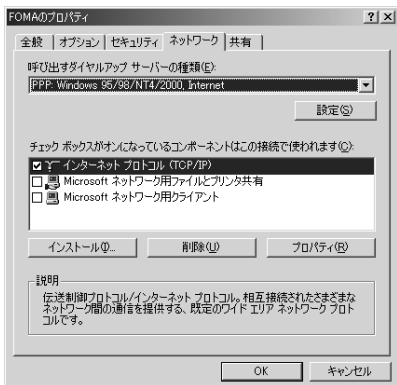
TCP/IPプロトコルを設定する

1 作成した接続先アイコンを選択▶「ファイル」→「プロパティ」をクリック

つづく▶

2 [全般] タブの各項目の設定を確認

- 複数のモデムがインストールされている場合は、「接続の方法」の「モデム－FOMA D705iμ (COMx) ※1」を選択します。
  モデムを変更した場合は、「電話番号」の各項目が初期化されますので、再度接続先電話番号を入力してください。
- 「モデム－FOMA D705iμ（COMx）※1」のみチェックが入っていることを確認してください。
  ※1： COMx の x はお使いのパソコンによって異なります。
- 「ダイヤル情報を使う」を非選択（☐）にします。

3 [ネットワーク] タブをクリック▶各項目の設定を確認

- 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」は「PPP: Windows 95/98/NT4/2000, Internet」に設定します。
- コンポーネントは「インターネット プロトコル（TCP/IP）」だけを選択します。

4 [設定] をクリック

5 すべての項目を非選択（☐）にして [OK] をクリック

接続先のプロパティ画面に戻ります。

6 [OK] をクリック

Windows Vistaでダイヤルネットワークを設定する

- パソコンとFOMA端末を接続（☞P4）してから操作してください。

接続先を設定する

1 (スタート) ▶「接続先」をクリック

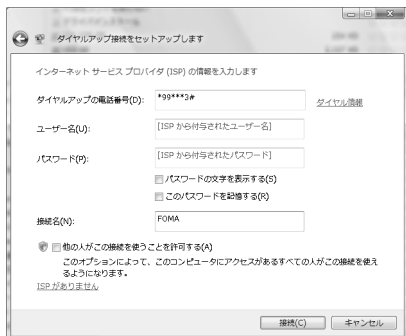
2 「接続またはネットワークをセットアップします」をクリック

3 「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択▶「次へ」をクリック

■「どのモデムを使いますか？」と表示された場合：
「FOMA D705iμモデム」をクリック

つづく▶

4 各項目を設定▶［接続］をクリック

- 「ダイヤルアップの電話番号」に接続先を入力します。
  - ・パケット通信の場合、＊99＊＊＊＜cid＞＃を入力します。
    ＜cid＞には、「パケット通信の接続先（APN）を設定する」（☛P24）で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3＃、moperaは＊99＊＊＊1＃となります。
  - ・64Kデータ通信の場合、接続先の電話番号を入力します。
    mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。
- 接続先がmopera U/moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。
- 「接続名」には次の半角記号は入力できません。
  ￥ / : ＊ ? ＜ ＞ |

5 接続中の旨のメッセージが表示されたら［スキップ］をクリック

- ここではすぐに接続せずに、設定だけを行います。

6 「インターネット接続テストに失敗しました」画面で「接続をセットアップします」をクリック

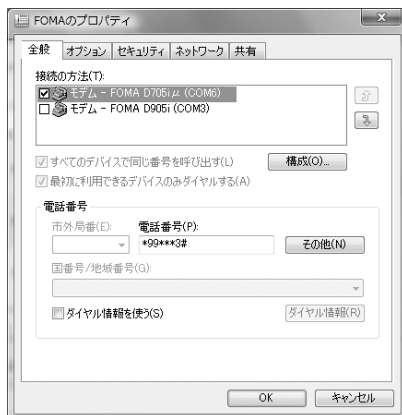
7 ［閉じる］をクリック

TCP/IPプロトコルを設定する

1 （スタート）▶「接続先」をクリック

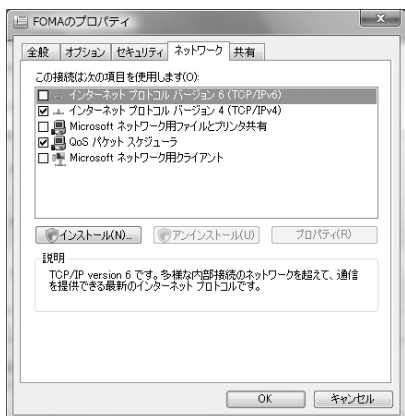
2 作成した接続先を右クリックして「プロパティ」をクリック

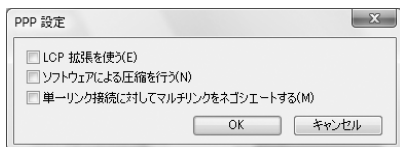
3 ［全般］タブの各項目の設定を確認

- 複数のモデムがインストールされている場合は、「接続の方法」の「モデム－FOMA D705iμ（COMx）※1」を選択します。
- 「モデム－FOMA D705iμ（COMx）※1」のみチェックが入っていることを確認してください。
  ※1： COMx の x はお使いのパソコンによって異なります。
- 「ダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。

4 ［ネットワーク］タブをクリック▶各項目を設定

- 「インターネットプロトコルバージョン6（TCP/IPv6）」を非選択（□）にします。
- プロバイダなどからIPおよびDNS情報の設定が指示されている場合は、「インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）」を選択し［プロパティ］をクリックして、各種情報を設定してください。

つづく▶

・「QoS パケットスケジューラ」はプロバイダなどの指示に従って必要に応じて選択してください。

5 [オプション]タブをクリック▶[PPP設定]をクリック

6 すべての項目を非選択(□)に設定▶[OK]をクリック

7 [OK]をクリック

ダイヤルアップ接続する

パケット通信／64Kデータ通信のダイヤルアップ接続を行う方法について説明します。

例 Windows XPの場合

1 FOMA端末とパソコンを接続する
☞P4

2 [スタート]→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

■ Windows 2000の場合：

①[スタート]→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリック

■ Windows Vistaの場合：

①(スタート)→「接続先」をクリック

3 接続先をダブルクリック

4 各項目を確認して[ダイヤル]をクリック

・「ダイヤル」には、ダイヤルアップネットワークに設定した接続先の番号が表示されます。
・接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。
・OS によっては、接続完了画面が表示されることがあります。

通信を切断するには

ブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作を行ってください。

例 Windows XPの場合

1 タスクトレイのをクリック▶[切断]をクリック

■ Windows 2000の場合：

①タスクトレイのをクリック▶[切断]をクリック

■ Windows Vistaの場合：

①(スタート)→「接続先」をクリック
②接続しているダイヤルアップを選択→「切断」をクリック

ATコマンド

ATコマンドとは、パソコンでFOMA端末の各機能を設定するためのコマンド（命令）です。
FOMA端末は、ATコマンドに準拠しさらに拡張コマンドの一部や独自のATコマンドをサポートしています。

ATコマンドについて

■ ATコマンドの入力形式

ATコマンドは、コマンドの先頭に「AT」を付けて入力します。半角英数字で入力してください。次に入力例を示します。

ATD＊99＊＊＊3#⏎
コマンド　パラメータ　Enterキーを押します

ATコマンドはコマンドに続くパラメータ（数字や記号）を含めて、1行で入力します。1行とは最初の文字から⏎を押した直前までの文字のことで、160文字（「AT」含む）まで入力できます。

■ ATコマンドの入力モード

ATコマンドでFOMA端末を操作する場合は、パソコンをターミナルモードにしてください。
ターミナルモードとは、パソコンを1台の通信端末（ターミナル）のように動作させるモードです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている機器や回線に送られます。

- オフラインモード
  FOMA端末が待受の状態です。通常ATコマンドでFOMA端末を操作する場合は、この状態で行います。
- オンラインデータモード
  FOMA端末が通信中の状態です。この状態のときにATコマンドを入力すると、送られてきた文字をそのまま通信先に送信して、通信先のモデムを誤動作させることがあります。通信中はATコマンドを入力しないでください。
- オンラインコマンドモード
  FOMA端末が通信中の状態でも、ATコマンドでFOMA 端末を操作できる状態です。その場合、通信先との接続を維持したまま AT コマンドを実行し、終了すると再び通信を続けられます。

おしらせ

● 外部接続機器から64Kデータ通信／テレビ電話通信を行う場合、2in1のモードに関わらずAナンバーで発信します。

オンラインデータモードとオンラインコマンドモードを切り替える

FOMA端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えるには、次の方法があります。

- 「+++」コマンドまたは「S2」レジスタに設定したコードを入力します。
- 「AT&D1」に設定されているときに、RS-232C※1のER信号をOFFにします。

オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに切り替えるには、「ATO⏎」と入力します。

※1：USBインタフェースにより、RS-232Cの信号線がエミュレートされていますので、通信アプリケーションによるRS-232Cの信号線制御が有効になります。

ATコマンド一覧

- ATコマンド入力時に、使用しているPCや通信ソフトのフォント設定により、「¥」を入力しても「\」と表示される場合があります。
- FOMA端末の電源を切らずに電池パックを取り外した場合、設定値が記録されないことがあります。
- ここで説明するのはFOMA D705iμ Modem Portで使用できるATコマンドです。

※1　：AT&Fコマンドで設定が初期化されます。
※2　：AT&WコマンドでFOMA端末に記憶でき、ATZコマンドで復元できます。
「なし」：表示コマンド、テストコマンドがないATコマンドです。
[　]　：省略できるパラメータです。

<table>
<tr><th colspan="2">コマンド</th><th colspan="6">概要・パラメータ</th></tr>
<tr><td colspan="2">AT</td><td colspan="6">ATコマンドを使用できる状態のときに「OK」を表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT%V</td><td colspan="6">FOMA端末のバージョンを「Verx.xx」の形式で表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT%V</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT&C[n]</td><td colspan="6">DTEへの回路CD信号の動作条件を選択します。
n=0:回路CD信号を常にONにします。（パラメータ省略時）
n=1:回路CD信号は相手モデムの状態に従って変化します。（お買い上げ時）</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT&C1</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT&D[n]</td><td colspan="6">オンラインデータモードの場合に、DTEから受け取る回路ER信号がONからOFFに変わったときの動作を設定します。
n=0:ER信号の状態を無視します（常にON）。（パラメータ省略時）
n=1:ER信号がONからOFFに変わるとオンラインコマンドモードになります。
n=2:ER信号がONからOFFに変わると回線を切断し、オフラインモードになります。（お買い上げ時）</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT&D1</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT&E[n]</td><td colspan="6">接続時の速度表示仕様を選択します。
ATXコマンドがn=0以外の場合に有効です。
n=0：無線区間通信速度を表示します。
n=1：パソコンとFOMA端末間の通信速度を表示します。（お買い上げ時）</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT&E1</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT&F[0]</td><td colspan="6">FOMA端末をお買い上げ時の状態に戻します。着信中に実行すると、着信には影響を与えずに、FOMA端末をお買い上げ時の状態に戻します。通信中は通信を切断（「NO CARRIER」を表示）してからお買い上げ時の状態に戻します。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT&F0</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT&S[n]</td><td colspan="6">FOMA端末の出力するDR信号の制御を設定します。
n=0:常にONにします。（お買い上げ時、パラメータ省略時）
n=1:回線接続時にDR信号をONにします。</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT&S0</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT&W[0]</td><td colspan="6">現在の設定値をFOMA端末に書き込みます。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT&W0</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT*DANTE</td><td colspan="6">電波の強さ（受信レベル）を「*DANTE:m」の形式で表示します。
m=0:圏外　m=1～3:FOMA端末に表示されるアンテナの本数（m=1:0本または1本）。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT*DANTE</td><td>表示</td><td>AT*DANTE?</td><td>テスト</td><td>AT*DANTE=?</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT*DGANSM=n</td><td colspan="6">パケット着信呼に対して、着信拒否、着信許可を設定します。
n=0:着信拒否設定と着信許可設定をOFFにします。（お買い上げ時）
n=1:着信拒否設定をONにします。　n=2:着信許可設定をONにします。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT*DGANSM=0</td><td>表示</td><td>AT*DGANSM?</td><td>テスト</td><td>AT*DGANSM=?</td></tr>
<tr><td colspan="2">AT*DGAPL=n[,cid]</td><td colspan="6">パケット着信呼に対して、着信を許可する接続先(APN)を設定します。APNは「+CGDCONT」で定義されたcidパラメータを使用します。
n=0:cidで定義されたAPNを着信許可リストへ追加します。
n=1:cidで定義されたAPNを着信許可リストから削除します。
cidパラメータを省略すると、すべてのcidを追加または削除します。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT*DGAPL=0,1</td><td>表示</td><td>AT*DGAPL?</td><td>テスト</td><td>AT*DGAPL=?</td></tr>
</table>

つづく▶

コマンド	概要・パラメータ
AT*DGARL=n[,cid]	パケット着信呼に対して、着信を拒否する接続先(APN)を設定します。APNは「+CGDCONT」で定義されたcidパラメータを使用します。 n=0:cidで定義されたAPNを着信拒否リストへ追加します。 n=1:cidで定義されたAPNを着信拒否リストから削除します。 cidパラメータを省略すると、すべてのcidを追加または削除します。
例	設定 AT*DGARL=0,1　表示 AT*DGARL?　テスト AT*DGARL=?
AT*DGPIR=n	パケット通信時の番号通知、非通知を設定します。発信時、着信時に有効です。 n=0:パケット通信確立時に、APNをそのまま使用します。(お買い上げ時) n=1:パケット通信確立時に、APNに「184」を付けます。 n=2:パケット通信確立時に、APNに「186」を付けます。
例	設定 AT*DGPIR=0　表示 AT*DGPIR?　テスト AT*DGPIR=?
AT*DRPW	受信電力指標を「*DRPW:m」の形式で表示します。m:0～75
例	設定 AT*DRPW　表示 なし　テスト AT*DRPW=?
+++	FOMA端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えます。エスケープガード区間は、1秒間の固定です。
例	設定 +++　表示 なし　テスト なし
AT+CAOC	直前の通話料を表示します。
例	設定 AT+CAOC　表示 AT+CAOC?　テスト AT+CAOC=?
AT+CBC	FOMA端末の電池残量を「+CBC：bcs,bcl」の形式で表示します。 bcs=0: 電池パックから電源の供給あり bcs=1: 電池パックから電源の供給なし bcs=2: 電池パックが取り外されている bcs=3: 電源供給エラー bcl=0: 電池残量なしまたは電池パックが取り外されている bcl=1～100: 電池残量あり
例	設定 AT+CBC　表示 なし　テスト AT+CBC=?
AT+CBST=n,1,0	利用する回線を設定します（ベアラサービス設定）。 n=116: 64Kデータ通信（お買い上げ時） n=134: 64Kテレビ電話
※1、※2 例	設定 AT+CBST=116,1,0　表示 AT+CBST?　テスト AT+CBST=?
AT+CEER	直前の通信の切断理由を表示します。☛P39
例	設定 AT+CEER　表示 なし　テスト AT+CEER=?
AT+CGDCONT	パケット通信時の接続先(APN)を設定します。☛P39
AT+CGEQMIN	パケット通信確立時に、ネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準を登録します。☛P39
AT+CGEQREQ	パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。☛P40
AT+CGMR	FOMA端末のバージョンを16桁の数字で表示します。
例	設定 AT+CGMR　表示 なし　テスト AT+CGMR=?
AT+CGREG=[n]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。通知される内容は、圏内または圏外です。 n=0:通知しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時) n=1:通知します。「+CGREG:n,stat」の形式で通知されます。 　stat=0:圏外　stat=1:圏内(home)　stat=4:不明　stat=5:圏内(visitor)
※1、※2 例	設定 AT+CGREG=1　表示 AT+CGREG?　テスト AT+CGREG=?
AT+CGSN	FOMA端末の製造番号を表示します。
例	設定 AT+CGSN　表示 なし　テスト AT+CGSN=?
AT+CLIP=[n]	64Kデータ通信の着信時に、相手の発信者番号をパソコンに表示します。 n=0:表示しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時) n=1:表示します。 AT+CLIP?を入力すると、「+CLIP:n,m」が表示されます。 　m=0:発信時に相手に発信者番号を通知しないネットワーク設定 　m=1:発信時に相手に発信者番号を通知するネットワーク設定　m=2:不明
※1、※2 例	設定 AT+CLIP=0　表示 AT+CLIP?　テスト AT+CLIP=?
AT+CLIR=[n]	64Kデータ通信の発信時に、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。 n=0:サービス契約の設定に従います。(パラメータ省略時)　n=1:通知しません。 n=2:通知します。(お買い上げ時) AT+CLIR?を入力すると、「+CLIR:n,m」を表示します。 　m=0:CLIRが起動していません。(常時通知)　m=1:CLIRが起動しています。(常時非通知) 　m=2:不明　m=3:CLIRテンポラリーモード（非通知デフォルト） 　m=4:CLIRテンポラリーモード（通知デフォルト）
例	設定 AT+CLIR=0　表示 AT+CLIR?　テスト AT+CLIR=?

つづく▶

<table>
<tr><th>コマンド</th><th colspan="7">概要・パラメータ</th></tr>
<tr><td>AT+CMEE=[n]</td><td colspan="7">FOMA端末のエラーレポートの形式を設定します。☛P39
n=0:「ERROR」を表示します。（お買い上げ時、パラメータ省略時）
n=1:「+CME ERROR：xxxx」の形式（xxxx は数字）で表示します。
n=2:「+CME ERROR：xxxx」の形式（xxxx は文字）で表示します。</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CMEE=0</td><td>表示</td><td>AT+CMEE?</td><td>テスト</td><td>AT+CMEE=?</td></tr>
<tr><td>AT+CNUM</td><td colspan="7">FOMA端末の自局番号を表示します。「+CNUM:, “number”,type」の形式で表示します。
number:電話番号
type=129:「+81」を表示しません。　type=145:「+81」を表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CNUM</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>AT+CNUM=?</td></tr>
<tr><td>AT+COPS=n,2,oper</td><td colspan="7">接続する通信業者の選択方法を設定します。
n=0: オート（ネットワークを自動検索して接続します。）（お買い上げ時）
n=1: マニュアル（operに指定した通信業者に接続します。）
n=2: 通信業者との接続を解除（切断）します。
n=3: マッピングしません。
n=4: operに指定された通信業者に接続できなかったとき、自動検索して接続します。
oper: PLMN Numberを16進数で設定します。</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+COPS=1</td><td>表示</td><td>AT+COPS？</td><td>テスト</td><td>AT+COPS=？</td></tr>
<tr><td>AT+CPAS</td><td colspan="7">FOMA端末が外部機器と制御信号を送受信できる状態かどうかを「+CPAS:n」の形式で表示します。
n=0: 可能　n=1: 不可能　n=2: 不明　n=3: 可能かつ着信中　n=4: 可能かつ通信中</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CPAS</td><td>表示</td><td>なし</td><td>テスト</td><td>AT+CPAS=？</td></tr>
<tr><td>AT+CPIN=“pin”
[,“newpin”]</td><td colspan="7">PIN1 ／ PIN2 コードや PIN ロック解除コードが入力要求されたときにこれらのコード入力します。
AT+CPIN？を入力すると現在の状態を「+CPIN:code」の形式で表示します。codeの値によって、次表のようにpin、newpinを指定してAT+CPIN=“pin”[,“newpin”]を実行します。
<table><tr><th>code</th><th>状態</th><th>pin</th><th>newpin</th></tr><tr><td>READY</td><td>入力要求なし</td><td></td><td></td></tr><tr><td>SIM PIN</td><td>PIN1コード入力待ち</td><td>PIN1コード</td><td>なし</td></tr><tr><td>SIM PIN2</td><td>PIN2コード入力待ち</td><td>PIN2コード</td><td>なし</td></tr><tr><td>SIM PUK</td><td>PIN1ロック状態</td><td>PINロック解除コード</td><td>新しいPIN1コード</td></tr><tr><td>SIM PUK2</td><td>PIN2ロック状態</td><td>PINロック解除コード</td><td>新しいPIN2コード</td></tr></table></td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CPIN= “0000”</td><td>表示</td><td>AT+CPIN？</td><td>テスト</td><td>AT+CPIN=？</td></tr>
<tr><td>AT+CR=[n]</td><td colspan="7">回線接続時に「CONNECT」が表示される前に、通信の種別（パケット通信または64Kデータ通信）を表示するかどうかを設定します。
n=0:表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時）
n=1:表示します。「+CR:serv」の形式で表示します。
serv=SYNC:64Kデータ通信　serv=GPRS:パケット通信</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CR=0</td><td>表示</td><td>AT+CR?</td><td>テスト</td><td>AT+CR=?</td></tr>
<tr><td>AT+CRC=[n]</td><td colspan="7">着信時に+CRING:typeのリザルトコードを使用するかどうかを設定します。
n=0:+CRING:typeのリザルトコードを使用しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時）
n=1:+CRING:typeのリザルトコードを使用します。応答例は以下のとおりです。
パケット通信　 … +CRING:GPRS “PPP”,,, “mopera.net”
64Kデータ通信 … +CRING:SYNC</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CRC=0</td><td>表示</td><td>AT+CRC?</td><td>テスト</td><td>AT+CRC=?</td></tr>
<tr><td>AT+CREG=[n]</td><td colspan="7">圏内／圏外情報を表示するかどうかを設定します。
n=0:表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時）　n=1:表示します。
AT+CREG?を入力すると、「+CREG:n,stat」の形式で表示します。
stat=0:圏外　stat=1:圏内(home)　stat=4:不明　stat=5:圏内(visitor)</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CREG=0</td><td>表示</td><td>AT+CREG?</td><td>テスト</td><td>AT+CREG=?</td></tr>
<tr><td>AT+CUSD=n,“str”[,0]</td><td colspan="7">ネットワークサービスの追加サービス（USSD）の問合せや設定を行います。
n=0:中間リザルトを応答しません。（お買い上げ時）
n=1: 中間リザルトコードを「+CUSD:m, “str”,0」の形式で表示します。
m=0: 情報を要求しない　m=1: 情報を要求する
str: ドコモから通知されたサービスコード</td></tr>
<tr><td></td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+CUSD=1,
“*148*1*0000#”,0</td><td>表示</td><td>AT+CUSD？</td><td>テスト</td><td>AT+CUSD=？</td></tr>
<tr><td>AT+FCLASS=0</td><td colspan="7">FOMA 端末がサポートする通信種別を設定します（設定値は変更できません）。データのみサポートします。</td></tr>
<tr><td>※1、※2</td><td>例</td><td>設定</td><td>AT+FCLASS=0</td><td>表示</td><td>AT+FCLASS？</td><td>テスト</td><td>AT+FCLASS=？</td></tr>
</table>

つづく▶

コマンド		概要・パラメータ					
AT+GCAP		FOMA端末がサポートしているATコマンドの範囲を「+GCAP: n,n,n」の形式で表示します。 n=+CGSM: GSMコマンドの一部またはすべてをサポート n=+FCLASS: +FCLASSコマンドをサポート n=+W: +Wコマンドをサポート					
	例	設定	AT+GCAP	表示	なし	テスト	AT+GCAP=?
AT+GMI		FOMA端末の製造会社名を表示します。					
	例	設定	AT+GMI	表示	なし	テスト	AT+GMI=?
AT+GMM		FOMA端末名を表示します。					
	例	設定	AT+GMM	表示	なし	テスト	AT+GMM=?
AT+GMR		FOMA端末のバージョンを表示します。					
	例	設定	AT+GMR	表示	なし	テスト	AT+GMR=?
AT+IFC=[n,[m]]		パソコンとFOMA端末間のローカルフロー制御方式を設定します。 nはDCE by DTEの制御を設定します。 n=0:フロー制御しません。 n=1:XON/XOFFフロー制御します。 n=2:RS/CS(RTS/CTS)フロー制御します。(お買い上げ時) mはDTE by DCEの制御を設定します。省略するとDCE by DTEと同じ入力値になります。 m=0:フロー制御しません。 m=1:XON/XOFFフロー制御します。 m=2:RS/CS(RTS/CTS)フロー制御します。(お買い上げ時) パラメータをすべて省略すると、AT+IFC=2,2になります。					
※1、※2	例	設定	AT+IFC=2,2	表示	AT+IFC?	テスト	AT+IFC=?
AT+WS46=[22]		発信時にFOMA端末が使用する無線ネットワークを設定します。					
※1、※2	例	設定	AT+WS46=22	表示	AT+WS46?	テスト	AT+WS46=?
ATA		パケット通信、64K データ通信の着信時に着信処理をします。パケット着信中には次のコマンドが入力できます。 ATA184:発信者番号通知なし着信 ATA186:発信者番号通知あり着信					
	例	設定	ATA	表示	なし	テスト	なし
A/		直前に実行したコマンドを再実行します。					
	例	設定	A/	表示	なし	テスト	なし
ATD		パケット通信または64Kデータ通信の発信をします。 ・パケット通信…「ATD＊99＊＊＊cid#」の形式で入力します。cidパラメータを省略すると、cid=1になります。 「ATD184＊99」で始まる形式で入力した場合、指定したcidパラメータのAPNに対して184(発信者番号通知なし)が付加されます(186でも同様です)。 ・64Kデータ通信…「ATD電話番号」の形式で入力します。 ・リダイヤル発信…「ATDL」または「ATDN」の形式で入力します。					
	例	設定	ATD電話番号	表示	なし	テスト	なし
ATE[n]		パソコンから送信された文字をエコーバックします。 n=0:エコーバックしません。(パラメータ省略時) n=1:エコーバックします。(お買い上げ時)					
※1、※2	例	設定	ATE0	表示	なし	テスト	なし
ATH		通信を切断します。					
	例	設定	ATH	表示	なし	テスト	なし
ATI[n]		認識コードを表示します。 n=0:「NTT DoCoMo」と表示します。(パラメータ省略時) n=1:FOMA端末の機種名を表示します。 n=2:FOMA端末のバージョンを表示します。					
	例	設定	ATI0	表示	なし	テスト	なし
ATO		オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに移行します。					
	例	設定	ATO	表示	なし	テスト	なし
ATQ[n]		パソコンにリザルトコードを表示するかどうかを設定します。 n=0:リザルトコードを表示します。(お買い上げ時、パラメータ省略時) n=1:リザルトコードを表示しません。					
※1、※2	例	設定	ATQ0	表示	なし	テスト	なし
ATV[n]		リザルトコードの表示方法を設定します。 n=0:数字で表示します。(パラメータ省略時) n=1:文字で表示します。(お買い上げ時)					
※1、※2	例	設定	ATV1	表示	なし	テスト	なし

つづく▶

コマンド		概要・パラメータ					
ATX[n]		ビジートーン検出、ダイヤルトーン検出、通信速度表示を設定します。 n=0:ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示なし。（パラメータ省略時） n=1:ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示あり。 n=2:ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出あり、通信速度表示あり。 n=3:ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示あり。 n=4:ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出あり、通信速度表示あり。（お買い上げ時）					
※1、※2	例	設定	ATX1	表示	なし	テスト	なし
ATZ		FOMA端末の設定をAT&Wで記憶させた不揮発メモリの内容に復元します。パケット通信または64Kデータ通信の着信中に入力したときは、着信には影響を与えずに復元します。通信中に入力すると、通信を切断してから復元します。					
	例	設定	ATZ	表示	なし	テスト	なし
ATS0=[n]		FOMA端末で自動着信するまでの呼出（RING）回数を設定します。 n=0:自動着信しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1～255					
※1、※2	例	設定	ATS0=0	表示	ATS0?	テスト	なし
ATS2=[n]		エスケープキャラクタを設定します。 n=0～127（43:お買い上げ時、0:パラメータ省略時、127:エスケープ処理を無効にする）					
※1	例	設定	ATS2=43	表示	ATS2?	テスト	なし
ATS3=[13]		AT コマンドの文字列の最後を認識する復帰 (CR) キャラクタを設定します（設定値は変更できません）。エコーバックされたコマンド文字列とリザルトコードの最後に付けられます。					
※1	例	設定	ATS3=13	表示	ATS3?	テスト	なし
ATS4=[10]		改行(LF)キャラクタの設定をします（設定値は変更できません）。英文字でリザルトコードを表示する場合に、復帰(CR)キャラクタの次に付けられます。					
※1	例	設定	ATS4=10	表示	ATS4?	テスト	なし
ATS5=[8]		ATコマンド入力中に、入力バッファの最後のキャラクタを削除するバックスペース(BS)キャラクタを設定します（設定値は変更できません）。					
※1	例	設定	ATS5=8	表示	ATS5?	テスト	なし
ATS6=[n]		ダイヤルするまでのポーズ時間を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、動作しません。 n=2～10：単位は秒。（5:お買い上げ時、パラメータ省略時）					
※1	例	設定	ATS6=5	表示	ATS6?	テスト	なし
ATS8=[n]		カンマダイヤル機能（ポーズ時間）を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、ポーズ時間は3秒で固定です。 n=0～255：単位は秒。（3:お買い上げ時、0:パラメータ省略時）					
※1	例	設定	ATS8=3	表示	ATS8?	テスト	なし
ATS10=[n]		自動切断までの遅延時間を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、動作しません。 n=1～255：単位は1/10秒。（1:お買い上げ時、パラメータ省略時）					
※1、※2	例	設定	ATS10=1	表示	ATS10?	テスト	なし
ATS30=[n]		データ転送がなかった場合、通信を切断するまでの時間を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=1～255:単位は分。 n=0:切断しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時）					
※1	例	設定	ATS30=0	表示	ATS30?	テスト	なし
ATS103=[n]		着サブアドレスを付けて発信するときの区切りに使う記号を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=0:＊（パラメータ省略時） n=1:/（お買い上げ時） n=2:￥					
※1	例	設定	ATS103=0	表示	ATS103?	テスト	なし
ATS104=[n]		発サブアドレスを付けて発信するときの区切りに使う記号を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=0:#（パラメータ省略時） n=1:%（お買い上げ時） n=2:&					
※1	例	設定	ATS104=0	表示	ATS104?	テスト	なし
AT￥S		コマンドの設定内容とSレジスタを表示します。					
	例	設定	AT￥S	表示	なし	テスト	なし
AT￥V[n]		接続時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを選択します。 ATXコマンドのパラメータがn=1～4の場合に有効です。 n=0:拡張リザルトコードを使用しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:拡張リザルトコードを使用します。					
※1、※2	例	設定	AT￥V0	表示	なし	テスト	なし

切断理由一覧

■ パケット通信

値	理　由
26	APNが存在しない、または正しくありません。
27	
30	ネットワークによって切断されました。
33	パケット通信の契約がされていません。
36	正常に切断されました。

■ 64Kデータ通信

値	理　由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手を呼び出しましたが応答がありません。
21	相手側が着信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない処理速度を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信した、または着信を受けました。

エラーレポート一覧

数字表示	文字表示	理　由
1	no connection to phone	FOMA端末が接続されていません。
10	SIM not inserted	FOMAカードがセットされていません。
15	SIM wrong	FOMAカード以外のSIM（FOMAカードに相当するICカード）が挿入されています。
16	incorrect password	パスワードが間違っています。
100	unknown	不明なエラーです。

ATコマンドの補足説明

■ コマンド名：AT+CGDCONT=［パラメータ］

パケット発信時の接続先（APN）を設定します。

書式

AT+CGDCONT=［＜cid＞［,"PPP"［,"＜APN＞"]]]

パラメータ説明

＜cid＞：1～10

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が登録されています。

＜APN＞：任意

実行例

「abc」というAPN名を登録する場合のコマンド（＜cid＞=2の場合）

AT+CGDCONT=2,"PPP","abc"

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGDCONT=

すべての＜cid＞の設定をクリアします。ただし、「＜cid＞=1」と「＜cid＞=3」の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT=＜cid＞

指定された＜cid＞の設定をクリアします。ただし、「＜cid＞=1」と「＜cid＞=3」の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT=？

設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGDCONT？

現在の設定値を表示します。

■ コマンド名：AT+CGEQMIN=[パラメータ]

PPPパケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。

書式

AT+CGEQMIN=[＜cid＞[,,＜Maximum bitrate UL＞[,＜Maximum bitrate DL＞]]]

パラメータ説明

＜cid＞：1～10

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が登録されています。

＜Maximum bitrate UL＞：なしまたは64

＜Maximum bitrate DL＞：なしまたは384

「Maximum bitrate UL」および「Maximum bitrate DL」では、FOMA端末と基地局間の上りおよび下りの最低通信速度（kbps）を設定します。「なし（お買い上げ時）」に設定した場合は、すべての速度を許容しますが、「64」および「384」を設定した場合、これらの速度未満の接続は許容されないため、パケット通信が接続されない場合がありますのでご注意ください。

実行例

(1)上り／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（＜cid＞=2の場合）

AT+CGEQMIN=2

(2)上り64kbps／下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（＜cid＞=4の場合）

AT+CGEQMIN=4,,64,384

(3)上り64kbps／下りすべての速度のみ許容する場合のコマンド（＜cid＞=5の場合）

AT+CGEQMIN=5,,64

(4)上りすべての速度／下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（＜cid＞=6の場合）

AT+CGEQMIN=6,,,384

つづく▶

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQMIN=
　すべての<cid>の設定をクリアします。

AT+CGEQMIN=<cid>
　指定された< cid >をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQMIN=?
　設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGEQMIN?
　現在の設定を表示します。

■ コマンド名：AT+CGEQREQ=［パラメータ］

PPP パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。

書式

AT+CGEQREQ=[<cid>]

パラメータ説明

上り64kbps／下り384kbpsの速度で接続を要求するコマンドのみ設定可能です。各cidにはその内容がお買い上げ時に設定されています。

<cid>：1～10
　お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が登録されています。

実行例

（<cid>=2の場合）
AT+CGEQREQ=2

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQREQ=
　すべての< cid >をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQREQ=<cid>
　指定された< cid >をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQREQ=?
　設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGEQREQ?
　現在の設定を表示します。

リザルトコード

- ATV［n］コマンド（☛P37）がn=1に設定されている場合には文字表示（初期値）、n=0に設定されている場合には数字表示でリザルトコードが表示されます。

■ リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手と接続しました。
2	RING	着信が来ています。
3	NO CARRIER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受付られません。
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません。
7	BUSY	話中音の検出中です。
8	NO ANSWER	接続完了タイムアウトしました。
100	RESTRICTION	通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。
101	DELAYED	リダイヤル発信規制中です。

■ 拡張リザルトコード

数字表示	文字表示	FOMA端末－パソコン間の接続速度
5	CONNECT 1200	1200bps
10	CONNECT 2400	2400bps
11	CONNECT 4800	4800bps
13	CONNECT 7200	7200bps
12	CONNECT 9600	9600bps
15	CONNECT 14400	14400bps
16	CONNECT 19200	19200bps
17	CONNECT 38400	38400bps
18	CONNECT 57600	57600bps
19	CONNECT 115200	115200bps
20	CONNECT 230400	230400bps
21	CONNECT 460800	460800bps

おしらせ

- 従来のRS-232Cで接続するモデムとのパソコンでの処理上の互換性を保つため通信速度の表示はしますが、FOMA端末－PC間はFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）で接続されているため、実際の接続速度と異なります。

つづく▶

■ 通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	64Kデータ通信で接続
3	AV64K	AV（テレビ電話）［64K］で接続
5	PACKET	パケット通信で接続

■ リザルトコード表示例

ATX 0が設定されている場合

AT¥Vコマンド（☛P38）の設定に関わらず、接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。

文字表示例 ：ATD＊99＊＊＊3#
CONNECT（数字表示の場合は「1」）

ATX 1が設定されている場合

- ATX1、AT¥V0が設定されている場合（初期値）
  接続完了のときに、CONNECT<FOMA端末－PC間の速度>の書式で表示します。

  文字表示例 ：ATD＊99＊＊＊3#
  CONNECT 460800（数字表示の場合は「1 21」）

- ATX1、AT¥V1が設定されている場合※1
  接続完了のときに、CONNECT＜FOMA端末－PC 間の速度＞＜通信プロトコル＞＜接続先APN＞／＜上り方向（FOMA端末→無線基地局間）の最高速度＞／＜下り方向（FOMA端末←無線基地局間）の最高速度＞※2の書式で表示します。

  文字表示例 ：ATD＊99＊＊＊3#
  CONNECT 460800 PACKET mopera.net/64/384（数字表示の場合は「1 21 5」）

  FOMA端末ー PC間速度460800bpsで、mopera.net に、上り最大 64kbps、下り最大384kbpsで接続したことを表します。

※1：ATX1、AT¥V1を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しくできない場合があります。
ATX1、AT¥V0を設定した状態（初期値）でのご利用をおすすめします。

※2：AT¥V1が設定されている場合、<接続先APN>以降はパケットで接続している場合のみ表示されます。